

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業

# 京都工芸繊維大学 *COC* + 事業報告書 2017



代表校



京都工芸繊維大学

事業協働機関

連携校



京都府立大学  
京都学園大学  
舞鶴工業高等専門学校  
京都文教大学



京都府  
公益社団法人京都工業会  
丹後機械工業協同組合  
舞鶴商工会議所  
福知山商工会議所  
綾部商工会議所  
宮津商工会議所  
亀岡商工会議所  
宇治商工会議所  
特定非営利活動法人  
グローバル人材開発センター  
一般社団法人  
京都府北部地域・大学連携機構

## REPORT 2017



巻頭言 ..... 1

COC+事業全体の概要 ..... 2 - 3

京都工芸繊維大学 地域創生Tech Program ..... 4 - 5

各校の事業概要

京都工芸繊維大学 ..... 6 - 7

京都府立大学 ..... 8 - 9

京都学園大学 ..... 10 - 11

舞鶴工業高等専門学校 ..... 12 - 13

京都文教大学 ..... 14 - 15

2017年度の取組み紹介

5ヶ年進捗状況 ..... 18 - 19

2017年度の取組み一覧 ..... 20 - 21

京都工芸繊維大学 ..... 22 - 27

京都府立大学 ..... 28 - 31

京都学園大学 ..... 32 - 35

舞鶴工業高等専門学校 ..... 36 - 39

京都文教大学 ..... 40 - 43

数値目標達成状況 ..... 44

会議・連絡会の開催 ..... 45

フォーラムの開催 ..... 46 - 49

情報発信 ..... 50 - 51

COC+事業全体の概要

京都工芸繊維大学は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に大学・高専、自治体、企業等と連携し「北京都を中心とする国公私・高専連携による京都創生人材育成事業」を申請し採択されました。

同事業は、京都府の中で特に人口流出が進む北京都(府北部・中部地域)を中心として、京都府全体の地域創生を担う人材育成を国公立大学・高専の連携により推進することを事業の目的としています。

また、事業協働機関として京都府および府下の工業系・商工系経済団体などの11機関とも連携し、京都府における地域創生人材育成の中核的役割を担う事業を展開しています。

京都工芸繊維大学は、福知山市にキャンパスを設置し、地域入学枠の設定や地元企業でのインターンシップを必修とする「地域創生 Tech Program」を開設することで人口減少地域の活性化を担う人材を輩出するとともに、地域課題PBLやインターンシップの充実により京都府全体での地元就職率の向上を図ります。

参加校の京都府立大学、京都学園大学、舞鶴工業高等専門学校、京都文教大学は、NPOとの連携による地域公共人材資格の創設や地元企業・農家等との連携により、地域ニーズに対応する理工系人材やサービス経営人材を育成することとしています。

本報告書においては、前半部分で各大学等が取り組む人材育成事業の全体イメージについて、平成27～28年度に実施した事業を例に挙げながら詳説しています。P.17以降の後半部分では、各大学等が平成29年度に実施した特色ある取り組み(人材育成事業等)を紹介しています。

中間評価を受けて今後の展望

平成29年度には、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会の中間評価を受審しました。

結果、A評価(計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。)をいただき、「地域創生 Tech Program」を設置したことなど3点について、優れていることとしてコメントを頂戴しました。

一方、改善を要する点として、地域創生 Tech Programを構成するとともに、なぜ育成する人材像を「地域ニーズに対応する理工系人材やサービス経営人材」と絞り込んだのかについて明確にするようにとの課題もいただきました。

この課題に対する表面的な解答要素としては、①京都府北部5市2町が急激に過疎化していること、②京都府北部には文系大学が1校のみで理工系大学が存在しないため、高等学校の卒業生は府外又は都市部に進学せざるを得ない状況であること、③京都府北部には優良な機械・繊維・バイオなどの企業があり、理工系の技術者不足を訴えていること、④5市2町が積極的に観光産業の振興に取り組んでいること、⑤京都府全体の人口増のためには、出生率の高い府北部への若者の定着が効果的であること、などが挙げられますが、これらを具体的、客観的に示す必要があると考えています。

京都工芸繊維大学が平成28年度に開設した「地域創生 Tech Program」は、京都府北部地域を優先的に受け入れる枠を設けており、本来の学部教育課程における教養教育や専門教育の授業科目を学修することに加えて、強い地域貢献意欲を有した人材を育成することを目的とした特別な教育プログラムです。

同プログラムは、平成30年9月より学修の拠点を福知山キャンパスに移し、地域課題解決型学習方法(Project Based Learning)を用いた「地域創生課題セミナー」や地元企業等における「ものづくりインターンシップ」など実践的・能動的な授業科目を履修した後、「卒業プロジェクト」を完成させる構成となっています。

これらの授業科目を通して、主として京都府北部地域で活動される企業に学生の目を向けさせ、地域の未来を担う若者の定着に向けた動機付けを行いたいと考えています。

いずれ地域の活性化や地域人材の確保につながり、延いては地域の発展に資することができるよう尽力したいと考えておりますので、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 10 月 1 日  
京都工芸繊維大学 理事・副学長

COC推進拠点長  
吉 本 昌 広

京都府の中で特に人口流出が進む北京都(府北部・中部地域)を中心として、京都府全体の地域創生を担う人材育成を国公立大学・高専の連携により推進する。

COC+大学の京都工芸繊維大学は福知山キャンパスを設置し、地域入学卒の設定や地元企業インターンシップを必修化する「地域創生 Tech Program」を開設することで人口減少地域の活性化を担う人材を輩出するとともに、地域課題PBLやインターンシップの充実により京都府全体での地元就職率の向上を図る。

参加校の京都府立大学、京都学園大学、舞鶴工業高等専門学校、京都文教大学は、NPOとの連携による地域公共人材資格の創設や地元企業・農家等との連携及び福知山キャンパスの活用により、地域ニーズに対応する理工系人材やサービス経営人材を育成する。京都府及び府下の工業系・商工系経済団体を含む11機関を事業協働機関とし、京都府における地域創生人材の中核的役割を担う人材育成事業を展開する。

1

北京都地域に人材育成拠点を設置  
理工系・サービス経営人材を輩出し地域活性化を図る

京都府の中で人口流出が進む北京都地域において、人材育成拠点(福知山キャンパス)を設置することにより理工系人材及びサービス経営人材を輩出し、地元企業の振興や新産業・雇用の創出を牽引する若者を地元に着定させることで、北京都の地域活性化を図る。



2

大学卒業後に地元で就職し  
地域産業を支える若者を増加させ  
京都府全体の地域活性化を図る

京都府全域において、大学卒業後に地元で就職し地域産業を支える若者を増加させ、京都府全体の地域活性化を図る。

## 事業概要

### COC+大学・参加校

国立 京都工芸繊維大学  
【理工系】

国立 舞鶴工業高等専門学校  
【理工系】

- ・福知山キャンパスを設置し、北部から計画的に学生を受け入れ、北部に就職させる地域創生 Tech Programを開設
- ・地域企業インターンシップ等の充実により、地域ものづくり企業等への就職率を向上



- ・COC事業で培った連携を生かしたプログラムとして、「いきいき健康街づくり」「地域を担う機械技術者・電気技術者・メカトロ技術者育成」「地元工務店・設計事務所及び社会基盤メンテナンスを担う建設技術者育成」を新設



公立 京都府立大学  
【公共政策・人文科学・農学系】



私立 京都学園大学  
【バイオ・社会科学・人文科学・健康科学系】

- ・地域創生人材資格プログラムを開発し、自治体の公務員、金融機関、商工会議所、農協・漁協、社会福祉法人、観光産業、サービス業、NPOなどで活躍するサービス経営人材を育成



私立 京都文教大学  
【人文・社会科学、臨床心理、教育、福祉系】

- ・京都府南丹広域振興局や農林水産技術センター、地元農工商企業、100軒以上の地元農家との連携により、地域PBL型授業「実践プロジェクト」やインターンシップを充実
- ・食品開発センター・新種苗開発センターの設置による栽培技術改良や生産指導の充実

- ・京都府南部地域に本拠を構える大学として、地元中小企業でのインターンシップや就業マッチング機会の創出、地域ニーズに即したキャリア教育の充実を図り、京都府全体の地元就職率向上に寄与



## ① 求める人物像(アドミッション・ポリシー)

### 人材育成の目標

理工系の知識および技術に基づき、地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、グローバルな視野で協働できる技術者人材の育成を目指します。

### 工芸科学部 課程共通

### 求める能力・適性

生命と自然、人と文化への敬愛心、創造的・論理的な思考力、科学技術を学ぶための基礎学力、チャレンジ精神と行動力

### 選抜の方針・ポリシー

ものづくりを通して地域創生に貢献する意欲を持ち、科学技術、人間・社会・文化に対する広範な関心と、客観的な判断力、論理的説明力を有する人材を求めます。

TURN  
地域 Tech Leader  
の創出

地域創生 Tech Program へ進学  
地域 Tech Leader として就職

## ② Basic Learning 1年次～3年次前学期 主に京都市の松ヶ崎キャンパスで学修します。

学年	1	2	3
学期	前学期	後学期	前学期
地域創生Tech Program以外の学生と同等の言語教育科目、人間教育科目、専門教育科目			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 言語教育科目(英語鍛上げプログラム、独語、仏語、中国語)</li> <li>● 人間教養科目(三大学教養教育共同科目を含む) 京の伝統文化と先端(地域志向科目)【カテゴリー必修】など</li> <li>● 生命物質科学域(応用生物学、生体分子応用化学、高分子機能工学、物質工学の各課程の専門科目)</li> <li>● 設計工学域(電子システム工学、情報工学、機械工学、デザイン経営工学の各課程の専門科目)</li> <li>● 造形科学域(デザイン・建築学課程の専門科目)</li> </ul>			
主として地域創生Tech Programに向けた科目			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● リーダーシップ基礎Ⅰ-地域連携プロジェクト(1年次前学期)</li> <li>● リーダーシップ基礎Ⅱ(1年次後学期)</li> <li>● 知的財産経営論(1年次前学期)</li> <li>● リーダーシップ実践Ⅰ・Ⅱ(1年次前学期)</li> </ul>			
地域創生Tech Programだからこそ修得できる科目			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域課題導入セミナー(PBL)(1年次前学期)必修</li> <li>● アントレプレナーシップ概論(2年次前学期)</li> <li>● 知的財産概論Ⅰ・Ⅱ(2年次前学期・後学期)</li> <li>● 特許法・実用新案法Ⅰ・Ⅱ(2年次前学期・後学期)</li> <li>● 民法概論Ⅰ・Ⅱ(2年次前学期・後学期)</li> </ul>			

## 京都府北部を舞台とした課題解決型プログラム

京都工芸繊維大学は、平成28年4月から、グローバルな視野をもって工学・科学技術により地域の課題を解決できる国際高度専門技術者を育成するための学部課程の共通プログラムとして「地域創生 Tech Program」を開設しています。

現在、日本が地域や社会で直面している様々な課題は、限られた専門分野だけで解決できるものではなく、理工学を含めた総合的な視点で、多分野の人材が相互に協働して解決に向けて取り組んでいく必要があります。

本プログラムは、各自の専門力を生かした課題解決型プロジェクトを実践することで卒業に到るプログラムです。具体的にいうと、各自が工芸科学部に設置された教育プログラムによって教養や専門基礎を身に付けたうえで、京都府北部や北近畿をフィールドとして、地域課題をテーマとした学習やインターンシップによる多様な実践の体験を積み重ねることによって、地域を創生する人材を育成するプログラムです。

## ③ Advanced Learning 3年次後学期～4年次

学部の3年次後学期より、本学が福知山市に設置したキャンパスに学修の拠点を移し、地域課題解決型学習方法( Project Based Learning )を用いた「地域創生課題セミナー」や地元企業における「ものづくりインターンシップ」など実践的・能動的な授業科目を履修した後、「卒業プロジェクト」を完成させる構成となっています。



## 海外インターンシップ (4年次前期)



3
後学期
地域創生Tech Programだからこそ修得できる科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域創生課題セミナーⅠ(3年次後学期 第3クォータ)必修</li> <li>● ものづくりインターンシップⅠ(3年次後学期 第4クォータ)必修</li> <li>● 繊維科学概論(3年次後学期 第3クォータ)</li> <li>● 複合材料科学(3年次後学期 第3クォータ)</li> <li>● 先端複合材料学(3年次後学期 第4クォータ)</li> <li>● 複合材料基礎実験(3年次後学期 第4クォータ)</li> </ul>

4
前学期
地域創生Tech Programだからこそ修得できる科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域創生課題セミナーⅡ…(4年次前学期第1クォータ)</li> <li>● ものづくりインターンシップⅡ…(4年次前学期第2クォータ)</li> <li>● 複合材料ものづくり実験…(4年次前学期第1クォータ)</li> </ul>
後学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 卒業プロジェクト(4年次 通年)必修</li> </ul>

## GOAL! 地域貢献意欲を有した 国際的に活躍できる 理工科系高度専門技術者(地域 Tech Leader)

地域産業活性化や地域課題の解決に向けて、  
各自の専門能力を発揮し得る人材

本学卒業生として有すべき能力(工織コンピテンシー)である専門性、リーダーシップ、外国語運用能力、文化的アイデンティティおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生

## 地域インターンシップ (3年次後学期～4年次前学期)



## ③ Advanced Learning

福知山  
キャンパス

京都府

## ② Basic Learning



(1年次～3年次前学期)

松ヶ崎  
キャンパス

## ① START

## 先ず、京都で学ぶ意義

大学の街、学生の街、文化芸術都市、ものづくり都市といった京都の都市としての特性、それらを育んできた京都の歴史と伝統、千年を超え脈々と受け継がれている街づくり、それを支える京都の地域力、こういう要素と密接不可分に連携しているのが、京都工芸繊維大学の百年の歴史だと思います。京都の千年を超える歴史、それは、芸術文化の歴史でもあり、ものづくりの歴史でもあり、創造的な人間を育ててきた歴史でもあります。その歴史から学んでいただきたい。京都はいろんな地域力、人間力が彷彿としている街ですから、京都の街全体をキャンパスとしていただきたい。京都の街全体から学んだことと、大学で学ぶことがうまく混ざること、皆さんが携わる学問も、芸術も、ものづくりもどんどん進化したいと思います。

門川大作 京都市長 (KIT NEWS Vol.33 古山 前学長との対談より抜粋)



## 学ぶ！ 地域創生Tech Program “地域課題導入セミナー”

京都府北部で

### 授業の目的・概要

理工系のリーダー人材として必要な、地域社会・企業から求められているコミュニケーション力、リーダーシップ、課題解決力を理解し育成する科目。

特に京都府北部をベースに地域課題を考え、多分野の人材が相互に協力して解決へ導くためのプロセスを体験しながら学びます。

### 学習目標

地域社会の現状と課題を理解し、自ら課題解決へのマインドを持つようになる。  
グループワークを通じ、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力を身につける。  
多分野の知見を相互に協働して課題解決へ向かうプロセスを体験し、その重要性を理解する。



### フィールドワークスケジュール

#### 1日目

PM  
・北部各自治体様プレゼン  
①綾部 ②福知山  
③京丹後 ④与謝野  
⑤伊根 ⑥宮津 ⑦舞鶴  
・ディスカッション

#### 2日目

AM  
・7班に分かれて各地域  
へフィールドワーク  
PM  
・各チームでグループ  
ワーク

#### 3日目

AM  
・Team Presentation  
8分+Q&A 7分  
・北部各自治体様からの講評  
PM  
・採点結果発表

### 2017 年度プロジェクト・地域課題

班	地域	地域課題テーマ	地方自治体の担当課
1	綾部	黒谷和紙の製造技術を生かした新規の製品・産業を考案してください。	綾部市 企画政策課
2	福知山	夜久野の丹波漆を使った新しい製品開発、ブランディングを考案してください。	福知山市 大学政策課
3	京丹後	ドローンを使った京丹後・地方創生について考えてください。	京丹後市 企画総務部
4	与謝野	シルク素材を生かした医療・美容・健康分野の新しい展開を考案してください。	与謝野町 商工振興課
5	伊根	IT技術を活用し、伊根町がテーマパーク化しない観光地デザインをしてください。	伊根町 企画観光課
6	宮津	「市街地・新浜魚屋界隈」の既存建築を活かした新しい景観のデザインを提案してください。	宮津市 企画政策課
7	舞鶴	赤れんが倉庫を中心とする赤レンガ地域周辺の課題発見と空間デザインの提案をしてください。	舞鶴市 企画政策課



### 学生の感想

京都市内の方に人が集まる傾向があるのを改革し、もっと北部を賑やかにしたいと思った。自分なりに人が集まる方法を自分の分野から考えてみたい。

京都府北部地域の抱える課題というのは、遠い存在で難しいものだと思っていましたが、地域課題セミナーを通してより近い存在になりました。

地方創生というのは行政の方々はもちろんのこと、これからの北部を担う私たちが第一に考えるべき課題なのだと実感した。この課題から目をそらし続けるのではなく、私たちに託された問題なのだと意識していきたい。

自分達大学生のような者が外部からの風を吹き入れることによって良い影響をたくさん与えられるのではないかと感じた。

## 知る！

京都府地域で

### 京の伝統工芸一技と美ー



京都の伝統工芸と先端技術を融合したものづくり工房において体験学習を行い、ものづくりのコンセプトを学びます。伝統工芸を現代に生かす方法を、グループで考え提案し、他者の異なる視点を理解し、自分を表現できるリテラシーを獲得します。

### 産学連携ものづくり実践



京阪地区の大手メーカー企業、京都地区の中小加工企業のネットワークである京都試作ネットと密接な連携を行い、企画・開発の上流工程から、試作検証・量産設計を経て、生産に至るという“ものづくりプロセス”の全体を貫き見通す「俯瞰的な視点」を育む実践的教育を行っています。

### 府内企業の工場見学ツアー

- 株式会社村田製作所
- ニチユ三菱フォークリフト株式会社



11月、12月に京都府内の企業への見学ツアーを2回実施し、機械系の学生が47名参加しました。学生が企業の様々な部署を見学し、工場内では機械についての学生の質問に丁寧に対応いただきました。地域企業の魅力や就業環境に触れる経験を積み、地域での就職への意識を促すことができました。

## 働く！

京都府各地で

### 綾部工業団地インターンシップ

- インターンシップ先（機械分野・化学分野）  
日東精工株式会社／日東公進株式会社  
株式会社片山化学工業研究所／三ツ星ベルト技研株式会社  
日東薬品工業株式会社／株式会社住理工ホーステックス  
国産部品工業株式会社

綾部市の支援を得て、綾部工業団地で1泊2日のインターンシップを実施し、1回生を含む6人が参加した。  
「北部に世界に通用する技術をもっている企業があることを知った」「綾部が世界と関わっていることが分かった」などの感想が聞かれ、短期間であってもインターンシップを通じて現場を知ること、学生の北部地域と企業に対するイメージが大きく向上したことがうかがわれた。

### 就職フェア（キャリア・ミーティング）

4月の就職フェアでは、府北部企業が2社参加した。府内企業全体は、前年度より3社増え、13社が参加した。  
3月の就職フェアには、府北部企業5社が参加した。府内企業全体としては、16社が参加した。引き続き、府北部企業のパンフレットを配布するコーナーを設けた。また、事業協働機関である京都府(北部ジョブパーク)の協力を得て、京都府北部での就職に関する積極的な情報提供を行うことができた。







# 京都府立大学

地域の人材ネットワークを地域に根づく教育へ生かす

## 取り組み概要

京都府立大学は、京都の地域創生に貢献する人材を育成するため、「地域創生人材育成プログラム」を開発しました。これまでに本学の研究や教育で関わってきた、京都府内の各地域で活躍されるさまざまな分野の方々とのつながりなどを活かして、人材ネットワーク「COC+地(知)の案内人」を構築し、協働してプログラムを展開しています。具体的には、「京都の地域創生」の講義や、「地域創生フィールド演習」での農村体験等を通して、人材育成を進めています。大学での学びの集大成として、学生が大地に根を下ろして生きる人々を訪ね、その知恵と工夫に学びながら地域の皆さんと交流・協働しています。若者らしい感性と発想で新たな事業やライフスタイルを創造し、Well-beingな地域創生に貢献していきます。また、地域公共人材、グローバル人材の育成も推進しており、地域に学び、時代の地域創生の担い手を育てる取り組みをいっそう強めています。

## 実績・成果

### 「京都の地域創生」の講義



テレビ遠隔システムを使って「地(知)の案内人」の話を伺う

### 「地域創生フィールド演習」



舟屋調査(宮津市溝尻)



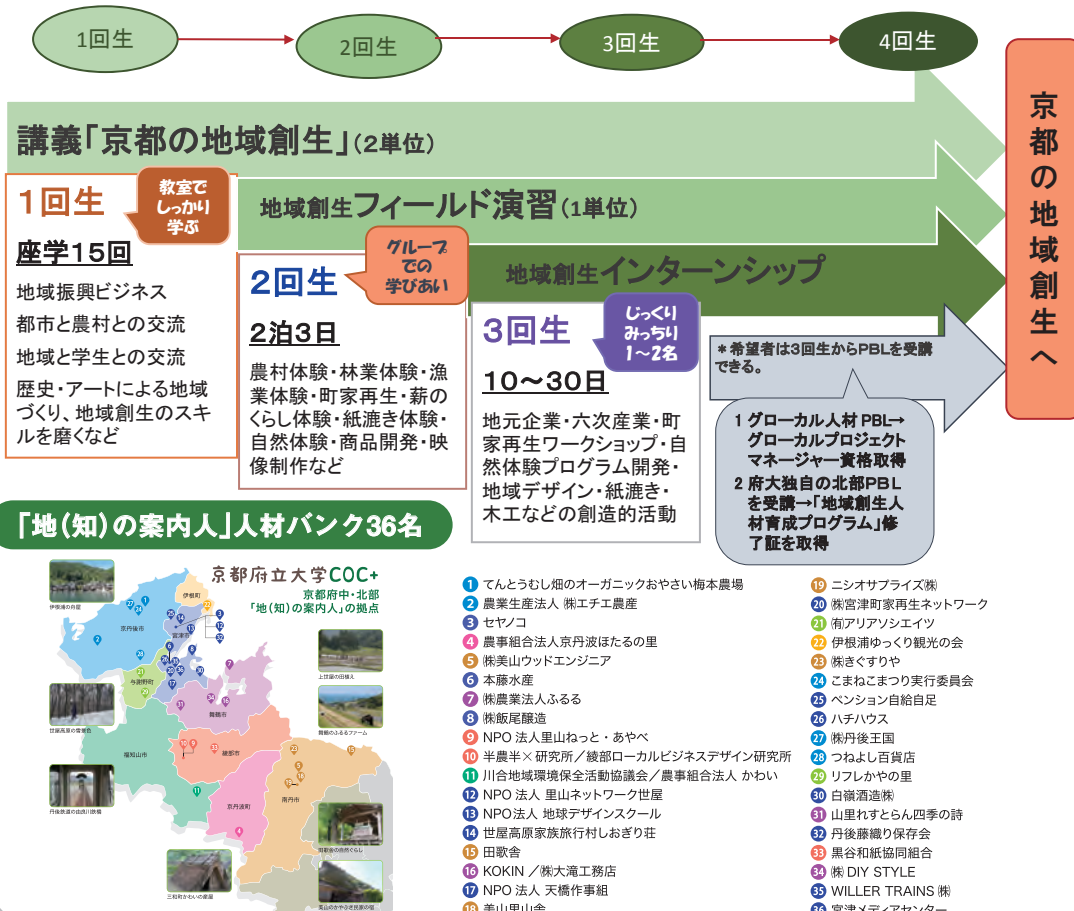
かやぶき屋根の補修(南丹市美山町)



黒谷和紙づくり体験(綾部市黒谷町)



## 地域創生人材育成プログラム



### COC+カフェ ~地(知)の案内人×学生×若手経営者が集まり地域の未来を考える~



つねよし百貨店(京丹後市大宮町)



FLAT+(舞鶴市平野屋)



レストラン柳町(福知山市下柳町)





## 取り組み概要

京都学園大学は、経済経営学部、健康医療学部、人文学部、バイオ環境学部の4学部10学科からなる文理融合総合大学です。食と農に関する地域社会との連携事業を中心に、全学をあげた問題解決型授業や実践プロジェクト、京都府内および海外の企業への長期インターンシップなどの実学教育を実施しています。

南丹地域の地元企業や官公庁など約20団体と包括連携協定を締結しました。また、新規作物の普及を通じて地域農業の活性化に取り組む京都亀岡キャンパス周辺農家の団体、「特産物を考える会」と共に活動を行いました。地域企業や農家との連携プロジェクトを推進する研究開発拠点として、食品開発センターと新種苗開発センターを開設し、学生が企業関係者や教員と関わりながら、新品種の開発と普及、商品開発、一次加工、商品化などを行っています。

これらの事業を通じて、学生の人間力を向上させるとともに、農・食品系の高付加価値産品により地域産業の競争力を高めることで新たな雇用を創出し、学生の地元就職率も向上させます。

### 食品開発センター/新商品の開発



城陽市青谷梅園で栽培している京都特産「城州白」を紀州南高梅に負けないブランドにしたいとの依頼から、バイオ環境学部食農学科の3回生が取り組む実践プロジェクトDのテーマの1つに取り上げ、商品の開発に取り組みました。食品開発センターを活用し、梅ジャムを利用した梅クッキーの試作品が出来上がりました。オープンキャンパスなどでサンプルを配布し課題を再発見。商品化に向け大量生産できるようにジャムの入れ方等を改良しました。今後は学生チャレンジショップ「京學堂」や依頼元の青谷梅工房での販売を予定しています。フィールドワークで地元の企業・農家に直接触れる機会が設けられ、地元への興味・関心を高めることに貢献しています。



フィールドワークの様子



サンプル品の配布

### 新種苗開発センター/連携の強化



新種苗開発センターでは、特産物を考える会で栽培が始まっているササゲ品種「なつさや」の高品質化に向けた育種を開始しています。また、地元の方々が集まるイベント等でサンプルを配布するなど、認知度の向上にも努め、地域農家との連携を深めています。

#### かめまるいも特産化プロジェクト

亀岡市の特産品である「かめまるいも」の苗の生産と、無病苗生産のための培養・増殖技術について研究中です。ウイルス検出技術の開発を行うと同時に、地元農家の方々と連携しながら、新たな加工方法や調理方法を開発しています。



なつさやのサンプル品の配布



かめまるいも

## 実績・成果

### 就職・インターンシップ支援

全12回開催される業界研究セミナー(全回生対象)では、今年度から新たに、「京都の中小企業」の回を設け、京都発の企業をより多く知ってもらう機会を設けました。また、企業の新規開拓や過去に採用枠をいただいた実績のある企業を回り、就職先の拡大にも力を入れています。

その他、事業協働機関である亀岡商工会議所へは、毎年、インターンシップ生を送っている他、今回、トロッコ嵯峨駅で開催される亀岡物産フェアへの留学生派遣を通じ、地元企業と留学生との接点をもち、地元企業への関心を深める取り組みを始めました。

インターンシップには、今年度437名が参加しています。



インターンシップ事前研修会の様子



インターンシップの様子(亀岡商工会議所)

### 企業を招いての就職支援

#### 合同企業説明会

7/5～7/7開催

参加企業65社/うち京都本社22社

#### 個別企業説明会

5/31～7/28開催

参加企業50社/うち京都本社20社

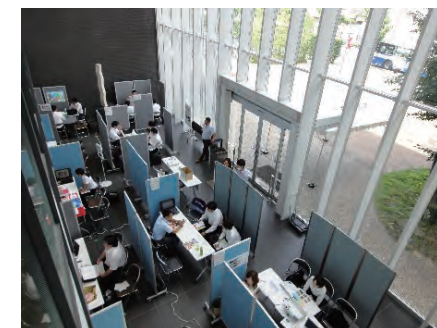
10/16～12/6開催

参加企業15社/うち京都本社9社

#### 業界研究セミナー

10/18～12/20開催

参加企業13社/うち京都本社9社



合同企業説明会の様子

### 学生が京都企業とフリンを共同開発し発売



京都学園大学の学生チャレンジショップ京學堂と企業が共同開発した「濃厚ぷりん」が発売されました。味は、プレミアムと抹茶の2種類です。

京野菜を使ったスイーツの店「京都フレーバーズ」と学生が半年をかけて、商品企画から味、商品名、パッケージデザインまでを検討してきました。

10月15日・16日に開催された「京都国際映画祭」にて先行販売を行い、用意した200個のプリンが完売するほど大好評でした。



販売の様子



取り組み概要

3つの事業と12のプログラム

舞鶴高専では3つの事業で12のプログラムを実施しています(表1)。これらのプログラムを通じて、学生の地域志向マインドを向上させ、地域を担う人材育成を推進します。平成27年度から順次プログラムを立ち上げ、平成28年度からは全てのプログラムを実施しています。

- 事業1
- 地域の企業や自治体と連携して地域を担う人材育成を推進する。
- 事業2
- 地域の学習と研究を通じて学生の地域志向マインドを向上させる。
- 事業3
- 地域への公開講座を通じて学生の地域志向マインドを向上させる。

事業1	1-1	いきいき健康街づくりの推進	自然
	1-2	地域企業との連携による地域を担う機械技術者の育成	機械
	1-3	地域企業との連携による地域を担う電気技術者の育成	電気
	1-4	地域企業との連携による地域を担うメカトロ技術者の育成	制御
	1-5	京都府の工務店、設計事務所、自治体との連携による地域を担う建築技術者の育成	建設
	1-6	京都府の社会基盤メンテナンスを担う建設技術者の育成	建設
事業2	2-1	「まちづくり」計画の学習と立案	人文
	2-2	京都府北部の埋もれた文化財の発見と活用	人文
	2-3	巡礼学びのプログラム	人文
事業3	3-1	防災教育と理科教育	自然
	3-2	電気電子工作、プログラミング	電気
	3-3	小中学生ロボコン大会	制御

(表1)3つの事業の12のプログラム

地域志向科目の設定

舞鶴高専では地域志向科目として28科目を開設しています(表2)。地域志向科目は、地域の歴史・文化を学ぶ科目、または地元の企業技術者や自治体職員と連携して進める科目、または企業を定期的に見学する科目です。また、新設地元課題PBLとして、COC+を開始した平成27年度以降に開設または内容変更した地域課題の学習・調査・解決検討などを実施する科目も開設しています。これらの科目の学習を通じて学生の地域志向マインドを向上させ、地域を担う人材育成を推進します。

科目名	学科部門	学年	受講者数	新設 地元課題PBL
工学基礎	専門4学科	1	160	
インターンシップ	専門4学科・専攻科	4	約80	
卒業研究	専門4学科	5	約40	○
地域学Ⅰ	人文	5	40	○
地域学Ⅱ	人文	5	40	○
現代社会の政治・経済と法Ⅰ	人文	5	40	○
現代社会の政治・経済と法Ⅱ	人文	5	40	○
工作実習Ⅰ	機械	2	40	○
工作実習Ⅱ	機械	3	40	○
入門機械電気電子情報工学	機械	3	40	○
創造設計製作	機械	4	40	○
設計製図Ⅲ	機械	4	40	○
機械工学実験Ⅱ	機械	5	40	○
電気情報工学実験Ⅱ	電気情報	3	40	○
創造工学	電気情報	4	40	○
工学基礎研究	電気情報	4	約10	
創造設計プロジェクト	電子制御	4	40	○
建設システム工学概論Ⅰ	建設	1	40	
建設システム工学概論Ⅱ	建設	1	40	
建設設計製図Ⅰ	建設	4	40	○
特別研究基礎	専攻科	専1		
特別研究	専攻科	専2		
エンジニアリング・デザイン演習	専攻科	専2		
エネルギー環境学	専攻科	専1		
特別演習	専攻科	専2		○
まちづくり学	専攻科	専1		
メンテナンス工学	専攻科	専1		
特別実験	専攻科	専1		

(表2)28の地域志向科目

実績・成果

事業1 (1-1) いきいき健康街づくりの推進

学生が、舞鶴市企画政策課、健康づくり課 およびスポーツ振興課と連携し、地域課題「健康寿命の延伸」に取り組んでいます。

- (1) Wearable端末を利用した運動習慣支援
- (2) 健康ウォーキングコースの整備



提案された健康ウォーキングコース



6つのWalkingコース提案の様子

事業2 (2-3) 巡礼学びのプログラム

巡礼学びのプログラムでは、第10回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストにて、その成果を披露しました。

松尾寺住職のインタビューや学生の意識調査なども行い、最新の巡礼研究を盛り込んだもので、ローカルとグローバル、伝統と現代、宗教と非宗教という複眼的視覚から巡礼を論じた意欲的な英語発表となりました。

また、西国三十三箇所の一つで、舞鶴高専の裏山にある松尾寺についての紹介ビデオも作成しました。



英語プレゼンテーションコンテストでの成果発表の様子

事業3 (3-3) 小中学生ロボコン大会

本校学生がLEGOロボットの開発補助をする出前授業を実施しています。

舞鶴市にある社会福祉法人みずなぎ鹿原学園の「秋まつり」のイベントとして、出前授業「ロボット操作体験」を実施しました。そこでは、小学生を中心に、LEGOロボットや電子制御工学科の学生が製作したロボットの操作体験をしてもらいました。

舞鶴市立城南中学校の出前授業では、iPadで図面を見ながらLEGOロボットを組み立て、iPad アプリ「ロボットコマンダー」による遠隔操作でロボットを動かす競技を体験してもらいました。

舞鶴市立白糸中学校の出前授業では、iPadアプリ「EV3 プログラミング」を利用して、LEGOロボットのプログラミングを行いました。



みずなぎ鹿原学園での出前授業の様子



中学校での出前授業の様子





# 京都文教大学

「人間」について探究し、地域との  
「共生(ともいき)」を実現！

## 取り組み概要

京都文教大学は、宇治市以南の京都府南部地域に本拠を置く唯一の大学です。大学COC事業では、京都府宇治市、京都市伏見区と連携し、地域全体で学生、教職員、地域住民が学び合い、分かち合い、互いに尊重し生かし合う「ともいき(共生)キャンパス」の創造を目標としています。

京都府南部地域 **ともいき(共生)キャンパス** で  
育てる地域人材

建学の理念である「共生」の精神を具現化するために、大学のリソースを地域発展に  
また地域のパワーを大学教育に活用し、大学と地域が共に生かしあい、共に生き生き  
する「ともいき(共生)キャンパス」の創造を目指す。



COC+へは、2016年度より新たに参画し、「ともいき(共生)キャンパス」で育まれた学生が、卒業後も地域に根ざし、地域で地道に活動し、地域の方々とともにいきいきと人生を歩んでいけるよう、自治体や地元企業との連携を今まで以上に強化していきます。2年次からのインターンシップや企業と学生の出会いと就業マッチングの機会創出に取り組んでいます。

授業として展開する地元企業とのインターンシップなどに加え、課外活動としても中小企業経営者との交流会などを実施し、地域で学び、地域に貢献できる人材を育成します。就職活動前に地元、地域の中小企業を知ること、学生が志望する進路の選択肢を広げます。

## 実績・成果

### ① 企業インターンシップ

狙い: 地元企業とのマッチング、就業意識の向上



事前学習



実習



成果報告会

### ② 企業見学ツアー

狙い: 経営者や若手社員との交流、多様な企業との出会い

京都中小企業家同友会の協力のもと、会員企業3社を訪問、正課内外で年間18件、約350名がバスツアーに参加



### ③ 社会人との交流会

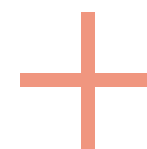
狙い: 中小企業の認知度向上、企業選びの選択肢拡大



2017年1月20日 洛南タイムス

## 2017年度の取組み紹介

COC



REPORT2017



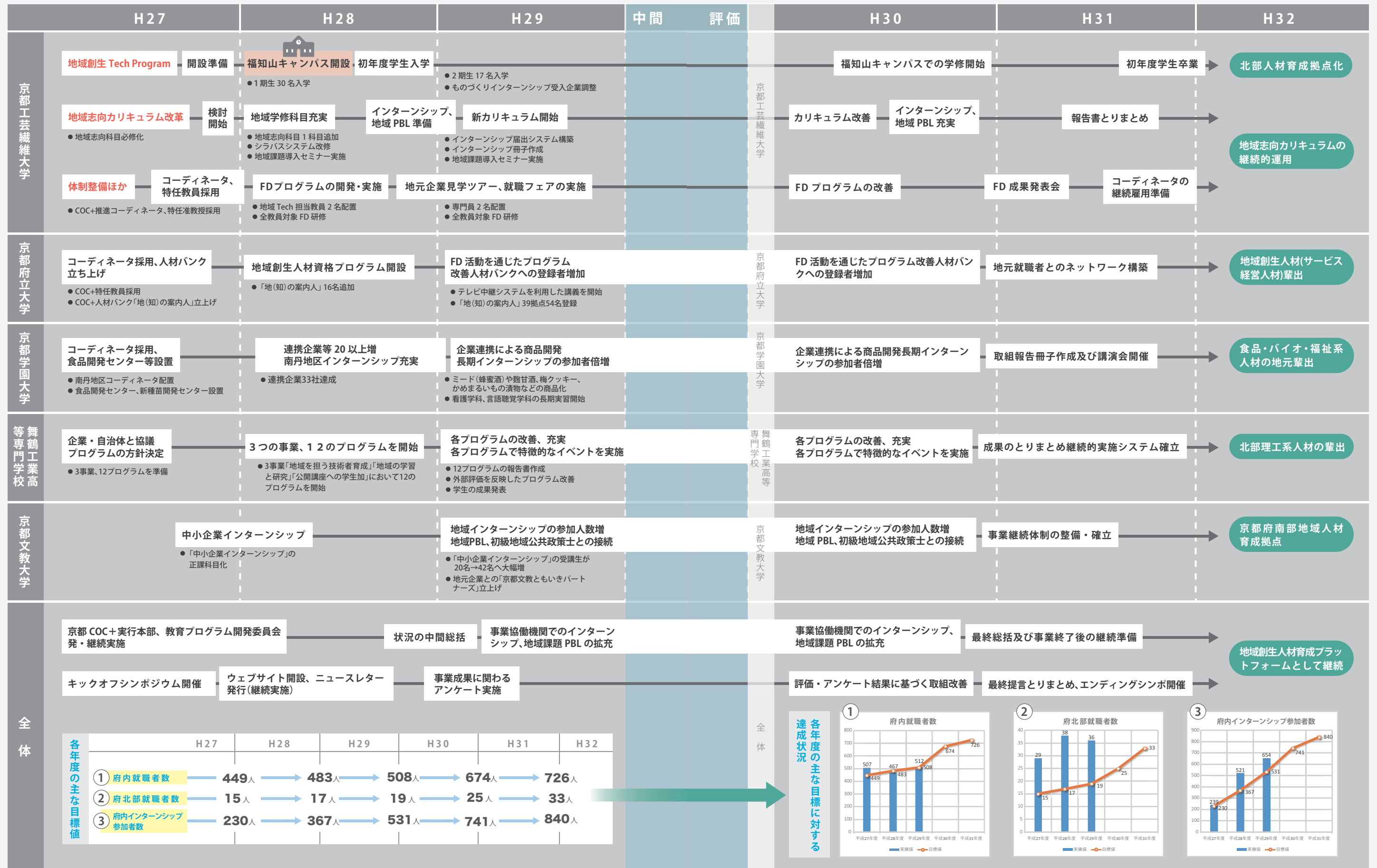


# 5ヶ年進捗状況

本事業は平成27年度に採択を受け、COC+大学である京都工芸繊維大学が、COC+参加校の京都府立大学、京都学園大学、舞鶴工業高等専門学校、京都文教大学及び京都大学(目標値非設定校)との連携のもと、インターンシップや地域課題解決型授業の充実などを通じ、地域企業等への就職支援を進めてきました。京都府及び府下の工業系・商工系経済団体を含む10機関の事業協働機関に加えて、平成29年度には宇治商工会議所が参画し、さらに京都府全域での活動を展開できるようになりました。

各校がそれぞれの強みを生かして相互に協力しあい事業に取り組んできた結果、申請時に掲げた目標を達成し、中間評価ではA(計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる)の評価を受けました。

引き続き、京都府への就職率の向上と、さらに事業終了後も継続して優秀な地域創生人材を育成するためのプラットフォームづくりを目指し、取り組みを進めていきます。



5月18日	COC+コーディネータ連絡会(第8回)開催 京都府立大学にて、数値目標の達成や中間評価の準備について協議しました。	    	P.45
5月20～21日	地域創生 Tech Program「チームビルディング合宿」 京丹後キャンパスと福知山キャンパスで1泊2日のチーム編成合宿を実施しました。		P.22
6月1日	京都産業学セミナー第4回 荒川晃嗣氏(建築家／有限会社テクトスタジオ 代表取締役)		P.24
6月12日	京都産業学セミナー第5回 湯上勝行氏(オムロン株式会社 事業開発本部 マイクロデバイス事業推進部)		P.24
6月21日	京都産業学セミナー第6回 松本圭吾氏(村田機械株式会社 繊維機械事業部)		P.24
6月27日	地域テクノアカデミア総会 舞鶴工業高等専門学校を支援する地元企業の団体「地域テクノアカデミア」の総会を開催しました。		P.36
11月16日	京都文教ともいきパートナーズ 意見交換会 京都文教大学の学生の育成を支援する京都府南部地域の企業・事業所との意見交換会を開催しました。		P.40
8月3～5日	企業見学ツアー in 京丹後 丹後機械工業協同組合の協力を得て、京丹後市で企業見学を行いました。		P.43
8月7～9日	地域創生 Tech Program「地域課題導入セミナー」 京丹後キャンパスで2泊3日のPBL合宿を実施しました。		P.22
8月16～20日	丹後王国で「地域創生インターンシップ」先行実施 キャリア演習として「丹後王国」(京丹後市)でのインターンシップを実施しました。		P.29
8月25日	COC+ コーディネータ連絡会(第9回)開催 京都学園大学にて、中間評価面接やフォーラムの準備について協議しました。	    	P.45
9月25日	綾部市の企業見学会 1day インターンシップ 綾部市で、就業体験を兼ねた企業見学会を実施しました。		P.25
9月29・30日	「COC+カフェ」を京丹後市、舞鶴市で開催 学生たちが地域での演習の成果を発表し、地域の人々と意見交換をしました。		P.31
10月11日	業界研究セミナー第1回 株式会社山田松香木店、旭金属工業株式会社		P.34
10月18日	業界研究セミナー第2回 株式会社 Hibana、株式会社三笑堂、こと京都株式会社		P.34
10月23日	中間評価面接評価 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会による面接評価を受けました。 審査の結果、A評価となりました。	    	

10月28日	宮津まちなみシンポジウム Vol.8「花街・新浜のなりたちと景観」 京都府立大学と舞鶴工業高等専門学校が参加し、宮津の景観を考えるシンポジウムが開催されました。	 	P.31
10月31日	綾部工業団地による京都工芸繊維大学見学会 綾部工業団地(綾部市)の企業の方々に大学の研究室を見学いただきました。		P.26
11月7日	COC+コーディネータ連絡会(第10回)開催 舞鶴赤れんがパークにて、フォーラムの準備や就職フェアについて協議しました。	    	P.45
11月15日	KBU プレジデント・セミナー第1回 森豊氏(株式会社西山ケミックス 代表取締役)		P.43
11月24日	教員FD研修会 地域における高校教育の現状に関する理解を深めるための教員向けの研修会を行いました。		P.23
11月28日	京都産業学セミナー第7回 前田実氏(尾池工業株式会社 ディスプレイ材料事業部)		P.24
11月28日	長田野工業団地による京都工芸繊維大学見学会 長田野工業団地(福知山市)の企業の方々に大学の研究室を見学いただきました。		P.26
12月6日	KBU プレジデント・セミナー第2回 神村圭氏(株式会社神村製作所 代表取締役社長)、山本申氏(株式会社神村製作所 代表取締役社長)		P.43
12月12日	京都産業学セミナー第8回 西尾隆氏(マツイカガク株式会社 管理部)		P.24
12月16・17日	新種苗開発センター講演会・交流会 農業に関する講演と地元の農業関係者との意見交換を行いました。		P.34
12月26日	COC+教育プログラム開発委員会(第3回)開催 京都工芸繊維大学にて、地域志向教育プログラムについて協議しました。	    	P.45
1月17日	COC+コーディネータ連絡会(第11回)開催 京都文教大学にて、フォーラムや就職フェアについて協議しました。	    	P.45
2月17日	新種苗開発センター講演会・交流会 地元の農業者と環境に配慮した農業技術や有機農産物の特産品化について意見交換を行いました。		P.34
3月20日	京都 COC+実行本部会議(第3回)開催 京都工芸繊維大学にて、平成29年度の報告を行い次年度の計画への承認を得ました。	    	P.45
3月20日	COC+フォーラム2018を開催 舞鶴赤れんがパークにて、「京都府北部の地域振興」をテーマに開催しました。	    	P.46



## I. インターンシップや地域課題 PBL の充実

京都工芸繊維大学

### 1. 地域創生 Tech Program 地域課題導入セミナー

#### 取組内容

「地域創生 Tech Program」2 期生に対して、5 月のチームビルディング合宿を経て、8 月に地域課題導入セミナー(1 年次生必修科目)を 2 泊 3 日で実施しました。京都府北部 5 市 2 町(福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)でフィールドワークを行い、地域の抱える課題を現地で学んだ後、京丹後キャンパスで解決策を考えて、福知山キャンパスでプレゼンテーションを行うプログラムです。プレゼンテーションには、各自治体の担当者と参加校の教員・学生も参加し、活発な質疑応答の後、各チームの採点を行いました。今年度は赤れんが倉庫周辺の活性化計画を提案した舞鶴チームが最優秀に選ばれ、3 月の C O C + フォーラムでポスター発表を行いました。

#### 成果

平成 29 年度は、5 月にチームビルディング合宿を実施し、府北部や地域創生 Tech Program への熱い想いを共有することで、8 月の 2 泊 3 日の合宿型授業をより充実した P B L とすることができました。前年度に、この授業を体験した 2 年次生がスチューデント・アシスタント(S A)として参加することで、2 年次生にとっても地域貢献意欲を一層高める機会となりました。また今年度からプレゼンテーション会場として福知山キャンパスを活用することにより、3 年次後学期から始まる福知山キャンパスでの学修の意欲を高めることができました。

#### 5 市 2 町から頂いた課題

地域	テ ー マ
福知山市	夜久野の丹波漆を使った新しい製品開発、ブランディングを考えてください
舞鶴市	赤れんが倉庫を中心とする赤れんが地域周辺の課題発見と空間デザインの提案をしてください
綾部市	黒谷和紙の製造技術を生かした新規の製品・産業を考案してください
宮津市	「市街地・新浜魚屋界隈」の既存建築を活かした新しい景観のデザインを提案してください
京丹後市	ドローンを使った京丹後・地方創生について考えてください
伊根町	IT 技術を活用し、伊根町がテーマパーク化しない観光地デザインをしてください
与謝野町	シルク素材を生かした医療・美容・健康分野の新しい展開を考えてください



チームビルディング合宿  
(於：京丹後キャンパス)



宮津市でのフィールドワークの様子



福知山市でのフィールドワークの様子



成果発表の様子  
(於：福知山キャンパス)

#### 実施概要

日時：2017 年 8 月 7 日(月)～9 日(水)  
場所：京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス・福知山キャンパス  
学生：地域創生 Tech Program 1 年次生 17 名、2 年次生(SA) 4 名  
教員：桑原教彰 情報工学・人間科学系 教授、大谷章夫 繊維学系 准教授

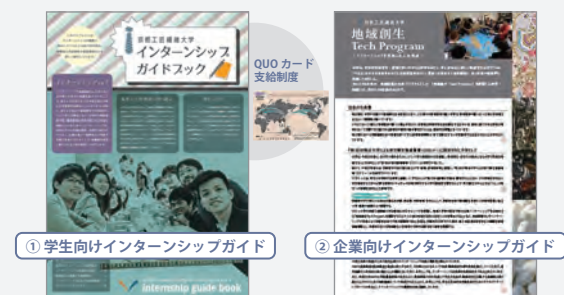
### 2. 京都府内でのインターンシップ推進の取組み

#### 取組内容

社会人として必要な能力を涵養し、産業や社会についての実践的な知見を深める機会であるインターンシップを推進するため、インターンシップの事前登録・成果報告システムを確立し、ガイドブックを用いて全学生に周知しました。また、企業向けのパンフレットを作成し、地域創生 Tech Program の「ものづくりインターンシップ」受入先企業の確保を行いました。

#### 成果

インターンシップの登録・報告システムの運用により、従来は把握できていなかった、学生が大学を通さずに自主的に行うインターンシップの実態を大学として管理できるようになりました。また、パンフレットによる学生への周知により、インターンシップの重要性に対する学生の認識を向上させ、参加意欲を高めることにつながりました。とりわけ府内企業へのインターンシップにインセンティブを設けることにより、地域企業の重要性について学生の関心を高めることができました。また、企業向けパンフレットの配布を通じて、府北部でのインターンシップ受入先企業を 30 社確保することができました。



## II. FD プログラムの実施

京都工芸繊維大学

### 2017 年度 教員 FD 研修会

#### 取組内容

C O C + 事業においては、課題解決型授業・アクティブラーニング等の双方向型授業及びインターンシップを通じて、「地域TECH LEADER」\*に求められる、計画力、提案力、実行力、関係構築力の育成を目指しています。そこで、これまで大学 C O C 事業において取り組んできた地域課題発見・解決型学習を全学的に展開するとともに、アクティブラーニングや地域企業等でのインターンシップへの参加を促進する観点からのFD 活動を実施しています。平成 29 年度は、「反転授業・アクティブラーニングの成功事例に学ぶ - 山梨大学及び嵯峨野高校の特色ある取り組み -」をテーマとする教員FD 研修会を開催し、教職員 66 名が参加しました。冒頭、総合教育センター 教育評価・FD 部会長である大谷芳夫 C O C 推進拠点長の開会挨拶に続き、第 1 部では京都府立嵯峨野高等学校の小川雅史校長による講演が行われました。嵯峨野高校では以前から高大接続や特色ある授業づくりに積極的に取り組み、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)やSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定されるなど、大きな成果を上げています。生徒や教職員の努力によって切磋琢磨する学習環境が育まれていること、学習指導要領や社会の変化への対応などについて語られ、講演後には、本学教員と活発な質疑応答が交わされました。続いて第 2 部では、山梨大学大学院 総合研究部工学域の森澤正之教授による講演が行われました。近年注目されているアクティブラーニングの手法で、知識伝達量を減らさずに知識の獲得と定着を図ることができる「反転授業」を詳しく紹介されました。森澤先生は事前学習動画の作成や授業の進め方に関する具体的な説明の後、学力や学習意欲の向上がデータで実証されていることを強調されました。参加者からは「自分の授業でも実践したい」「反転授業に対する「敷居」がかなり下がった」といった感想が寄せられました。この研修会の後、各課程・専攻等のFD 部会委員(副課程長、副専攻長等)をリーダーとして、本研修会の資料を用いた 2 次的な研修会を実施しました。



嵯峨野高等学校 小川 雅史 校長の講演



山梨大学大学院 森澤 正之 教授の講演



説明に聞き入る参加者



活発な質疑応答の様子

#### 成果

本プログラムに参加したFD 担当教員が、各課程・専攻で 2 次研修を実施することにより、全学的に、双方向型授業の意義及び実践例について共有を図ることができました。毎年度のFD 研修により、アクティブラーニングを導入した新科目の設定や、地域で活躍する人材育成プログラム「地域創生 Tech Program」の改善につながっています。

#### \* 地域TECH LEADERとは：

本学は、地域の課題を解決するプロジェクトにより、リーダーシップをもって成功に導き、地元の産業振興を牽引する「地域TECH LEADER」の育成を目指しています。地域の課題を解決するために修得が必要な能力として、①専門性 ②リーダーシップ ③外国語運用能力 ④日本人アイデンティティ ⑤地域貢献意欲の 5 つの資質・能力を設定しています。

#### 実施概要

日時：2017 年 11 月 24 日(金) 14 時～16 時 20 分  
場所：京都工芸繊維大学 60 周年記念館 1 階記念ホール  
参加者：教職員 66 名  
第一部  
講師：小川 雅史氏(京都府立嵯峨野高等学校 校長)  
テーマ：「高校教育の今～授業がたいへん?!～」  
第二部  
講師：森澤 正之氏(山梨大学大学院 総合研究部工学域教授)  
テーマ：「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」



## 1. 府内企業人によるセミナー（京都産業学セミナー／京都府寄付講座）

### 取組内容

学生にどんな企業が地元にあるのか知ってもらうため、府内企業の様々な分野で活躍する卒業生による、学生向けの連続講座を実施しています。2017年度には、事業協働機関である京都府（ジョブパーク）の支援を得て、京都府寄付講座「京都産業学セミナー」第4回～8回を開催しました。CMを流しているような大手企業だけでなく、中小ながらも世界的なシェアを誇るB to B企業からも講師を招き、グローバルな視点を持って地域産業に貢献する府内企業の魅力をお話いただきました。



第4回「建築家の資格と職能」



※第5回の講義の様子は、京都企業の人材確保・COC+事業の取り組み事例として、KBS 京都「京都あかみー」（6月26日放送回）の中で紹介されました。講師と大谷COC推進拠点長のインタビューに加え、学生の感想も放映されました。



第5回「世の中を変えるMEMSセンサとIoTの融合」



第6回「繊維機械業界の今と未来」



第7回「OIKEのドライ＆ウェットコーティング技術によるフィルム加工製品



第8回「マツイカガクのインキビジネス - 金属印刷インキの世界」



### 成果

本学卒業生を講師とした講座では、学生から企業やキャリアの構築について積極的な質問が相次ぎ、事後のアンケートでも、府内企業への関心が高まったことがうかがわれました。京都には、歴史・伝統を背景に新しいものに積極的にチャレンジする企業風土があるということが学生たちにも印象的だったようです。また、セミナーに参加した講師から、企業が本事業に参加するメリットについてお話いただき、2017年度事業紹介冊子に掲載することにより、府内企業へ事業をアピールすることができました。（講師からのコメントはp.27に再掲）

## 2. 地元企業見学ツアー

### 取組内容

COC+事業では、学生に地元の企業の現場を知ってもらうため、全学的に、府内企業への見学を推進・支援しています。2017年度は、10月から12月にかけて、ゼミ単位での小規模な見学から、50人以上での大型バスによる大規模な見学まで、合計5社への見学を実施しました。各企業では、製造工程について丁寧なガイダンスを受けることができ、卒業生との交流の機会を通じて、府内企業の雰囲気やどんな業務を行っているのかを具体的に知ることができました。

### 成果

見学後の学生アンケートでは、製造工程を見ることで具体的な仕事のイメージが沸いた、府内就職に対する関心が高まったなどの感想が聞かれました。先輩が活躍する現場を見ることで、学生が府内企業に関心をもつきっかけとなり、府内就職への動機づけにつながりました。



日新電機株式会社



黄桜株式会社

### 実施概要

日新電機株式会社 本社	黄桜株式会社 本社 伏水蔵	島津製作所 本社
日時：2017年10月30日(月)	日時：2017年11月8日(水)	日時：2017年11月24日(金)
学生：物質工学課程4回生、 材料制御化学専攻1回生、計3名	学生：応用生物学課程2回生、 計48名	学生：機械工学課程3回生、 計21名
教員：竹内 信行 材料化学系 准教授	教員：鈴木 秀之 応用生物系 教授	教員：田尻 恭平 機械工学系 助教



株式会社島津製作所

## 3. 京都府北部企業でのインターンシップ

### 取組内容

綾部市の支援を受け、授業外で「綾部市の企業見学会」を実施しました。18名の学生が綾部工業団地や周辺の企業を訪れ、工場見学や作業体験を行いました。工場見学では、学生たちは製品の構造のみならず綾部市での生活にいたるまで様々な質問をし、熱心にメモをとる姿が見られました。グンゼ博物苑では、創業当時を使用していた機械からグンゼの最新技術まで、技術の変遷と企業の歴史を知ることができました。さらに、この企業見学会を経て、より専門的な職業体験を含む1泊2日のインターンシップを綾部工業団地において実施し、1年次生を含む3名が参加しました。

### 成果

綾部市の企業見学会では、職業体験を組み込んだことで「実践的なプログラムだった」などの感想が得られ、学生が京都府北部にある企業の現場を知る機会となりました。さらに、2月の綾部工業団地でのインターンシップでは、「府北部の企業がグローバルに活動していることに驚いた」、「薬品製造の場の品質管理の厳重さに感動を覚えた」、「多くの工程を人と機械が補い合い作り上げていることが分かった」などの学生の声が聞かれました。早い時期に地域の就業環境に触れる経験を積むことにより、学生の地域企業へのイメージが大きく変わることがうかがわれました。



綾部市の企業見学会



綾部工業団地 2day  
インターンシップ



### 実施概要

綾部市の企業見学会 1day インターンシップ  
日時：2017年9月25日(月)  
場所：京セラ株式会社京都綾部工場、日東精工株式会社  
城山工場、日東公進株式会社、グンゼ株式会社綾部本社

綾部工業団地 2day インターンシップ  
日時：2018年2月20日(火)・21日(水)  
場所：日東薬品工業株式会社、株式会社片山化学工業研究所、  
住友理工ホーステックス株式会社



## 4. 地元企業の京都工芸繊維大学ツアー

## 取組内容

綾部工業団地による京都工芸繊維大学ツアーが実施され、綾部工業団地に立地する企業の方々が機械工学系の研究室を訪問しました。各研究室では学生が企業の方々へ研究内容の紹介や機器のデモンストレーションを実施しました。その他、長田野工業団地(福知山市)に立地する企業や、綾部鉄工工業協同組合による本学の見学会も実施しました。

## 成果

京都府北部企業の方々へ、COC＋事業の説明および、本学のインターンシッププログラムへの協力依頼も行うことができました。見学会後の交流会では、企業の方々と本学教員、学生が親睦を深め、企業と学生の交流の機会を創出することができました。企業の方々に、本学の研究内容と、どんな人材を育成しているかを知っていただくよい機会となりました。



各研究室での学生による説明の様子



## 実施概要

綾部工業団地からの見学	長田野工業団地からの見学	綾部鉄工工業協同組合からの見学
日時：2017年10月31日(火)	日時：2017年11月28日(火)	日時：2018年2月27日(火)
参加者：20名	参加者：27名	参加者：25名

## 5. 就職フェア Career Meeting

## 取組内容

今年度の就職フェアは、規模を拡大し、9日間で270社に参加いただきました(昨年度は110社)。府内に本社・事業所をおく企業118社(昨年度は16社)のうち、事業協働機関である商工会議所との連携により京都府北部企業を含む5社が参加しました。すでに相互利用を進めていた京都府立大学の学生だけでなく、他の参加校の学生も自由に参加できるようにしました。また、早い段階から地域企業に親しんでもらうため、地域創生 Tech Program の新入生向けに、京都府北部企業のブースで担当者と交流する機会を設けました。

## 成果

企業数を大幅に増やし、COC＋参加校の学生へも開放することで、5校の学生へ多くの京都府内企業の情報を得る機会を提供することができました。また府内への若年層の定着という目標に向けて事業協働機関との連携を深めることができました。

## 実施概要

日時：2018年3月1日(木)、2(金)、5(月)～8(木)、14日(水)～16日(金)  
場所：京都工芸繊維大学東3号館



府北部企業ブースを訪れる地域創生 Tech Program の新入生



企業説明の様子

## その他 地元企業との交流

## ソーシャルインタラクションデザイン

COC＋事業では、全学的に府内企業と学生の交流を促す取組みを支援しています。博士前期課程の専攻横断型のPBL授業「ソーシャルインタラクションデザイン」の成果報告会を、ワコール株式会社の協力を得て、「ワコールスタディホール京都」で開催しました。京都の観光情報と防災情報を組み合わせるアプリなどを学生が開発し、プロトタイプを作って提案しました。学生が地元企業や地域の行政の方々と交流するよい機会となりました。

## 実施概要

日時：2018年1月31日(水)  
場所：ワコールスタディホール 京都  
教員：澁谷 雄 情報工学・人間科学系教授、川北 真史 基盤科学系教授、西村雅信 デザイン・建築学系 准教授、池側隆之 デザイン・建築学系 准教授、山本 景子 情報工学・人間科学系 助教、CHEN Lu 情報工学・人間科学系 助教



## 事業へ参加いただいた京都府内の企業人によるコメント

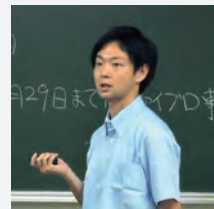
京都府寄付講座「京都産業学セミナー」(p.24)の講師の皆様から、COC＋事業に対して次のようなメッセージをいただいています。



オムロン株式会社 事業開発本部 マイクロデバイス事業推進部 営業推進部  
湯上 勝行 氏 / 1988年 京都工芸繊維大学 工芸学部 工業化学科卒

2017年6月12日(月)  
第5回「世の中を変えるMEMSセンサとIoTの融合」

東京方面に就職する学生さんが多いなか、関西地域に学生さんが残って欲しいと切実に感じてこのセミナーに協力したいと思った次第です。時代とともに学生さんの価値観も変わっていきませんが、オムロンに限らず、京都の企業全体が大学の主催するイベントに積極的に参加することで、学生さんたちがどんなことを考え、どんなことにチャレンジしたいのかを知ることができます。企業側も学生に対してどんな情報を発信すべきかを考えるきっかけになると思います。



村田機械株式会社 繊維機械事業部  
松本 圭吾 氏 / 2008年 京都工芸繊維大学 工芸学部 電子情報工学科卒

2017年6月21日(水)  
第6回「繊維機械業界の今と未来」

「B to B 企業」という単語は知っているけれど、実際何をするのか？と思っている学生さんが大半ではないかと思っています。実際、私も学生時代はその一人でした。でも、就職活動を進める中で、B to B の「主役ではないけれども、世界を支える根幹であることを誇りに仕事をされる先輩方」に魅力を感じ、現在の職を希望しました。まさに、「モノ作りを支えるモノ作り」です。学生さんたちには、少しでも早く B to B 企業を知ってもらい、未来の選択肢を増やしてもらえたらとの思いで、教壇に立たせていただきました。講義中、「この中の誰かと一緒に仕事ができるかもしれない。」とワクワクしたことを今でも覚えています。古都京都にはたくさんの B to B 企業が存在します。視野を広く持ってそれらの企業を見定め、世界へ踏み出す一歩としてほしいと思います。企業はその一助となるべく、様々な機会を作って、学生の皆様に情報提供を進めて参ります。



尾池工業株式会社 ディスプレイ材料事業部  
前田 実 氏 / 1993年 京都工芸繊維大学 工芸学部 物質工学科卒

2017年11月28日(火)  
第7回「OIKEの『ドライ＆ウェットコーティング技術』によるフィルム加工製品」

私は京都の大学を卒業後、京都の尾池工業に就職し、開発職に従事してきました。京都の企業に勤める事への強いこだわりがあった訳ではないですが、独特の伝統産業文化を礎としながら最先端技術への展開を図ってきた企業が多い印象を持ち、私自身もその環境に身を置く事で切磋琢磨できると思い就職した事を思い出します。京都は学生の街です。色々な思いを抱き将来を夢見た若い人たちが集う街であるともいえます。本育成事業においては、企業のイノベーションマインドを継承していく為にも、そういった熱意を持った学生さん達と一緒に働く事が出来る可能性を得る事ができるいい機会だと思いますし、一方、学生さん達の想像力を働かす事ができるようなPRができる環境作りを企業側も行っていく必要があるのかなと思います。



## 1.「京都の地域創生」の充実 「地域創生フィールド演習」の開始

### 取組内容

平成28年度から実施している講義「京都の地域創生」には、207名が履修登録しました。地域創生の基本概念、各地の事例、自治体の取組の3部門から計15回の講義を行い、最後には35グループに分かれてのワークショップで、自分たちが考える地域創生について発表しました。また、地域創生フィールド演習に参加した学生が作成したパワーポイントを講義で紹介しました。テレビ中継システムを導入することで、各地の「地(知)の案内人」とより効果的に交流できるようになりました。平成29年度から開始した「地域創生フィールド演習」では、111名が34の演習先に分かれて、地域の自然・文化・生業を学びました。



エチエ農産(京丹後市)農作業を通じて有機農法を学ぶ



山里れすとらん四季の詩(舞鶴市)無添加・手づくりの食品加工を学ぶ



美山里山舎(南丹市)で、林業・伝統建築、自然エネルギーの暮らしを学ぶ

### 成果

学生のレポートには、「過疎・高齢化で疲弊していると聞いていた地域のイメージが変わった」「地域創生には観光や経済振興だけでなく、地域住民の福祉や生きがいなども大事であることがわかった」などの感想がみられ、受講者の多くが地域創生について自分なりの考えをもてるようになりました。また、演習に参加した先輩たちの報告を聞くことで、演習内容への理解が深まりました。「地域創生フィールド演習」には100名を超える学生が参加し、地域の課題や可能性など地域への理解を深めることができ、自主性が高まりました。また、次年度のインターンシップや北部PBLへの関心を高めることにつながりました。



宮津メディアセンター(宮津市)地域イベント“和火”の動画制作

## 2. テレビ中継システムを活用した地域との対話型の講義方式の開発

### 取組内容

「京都の地域創生」では、テレビ中継システムにより「地(知)の案内人」の拠点と講義室をつなぎました。地域の状況や次年度の演習の紹介をしていただき、学生と交流をしました。



地域と講義室がつながった！7箇所から中継



里山ねっと・あやべ(綾部市)からの中継



ゲストハウス「ハチハウス」(宮津市)からの中継

### 成果

テレビ中継システムを活用することにより、「地域の方から直接話を聞くことができてよかった」、「学生への期待の大きさを感じた」など、学生の関心を高めることができました。昨年はCOC+のリサーチアシスタントが直接地域の拠点に向向いて中継を行いましたが、今年度からは、メディア関係の「地(知)の案内人」に中継を依頼したことで、講義におけるきめ細かな学生のフォローが可能となりました。

## 3. 地域創生インターンシップを先行的に実施

### 取組内容

平成30年度からの京都府北中部での「COC+地域創生インターンシップ」開講にさきがけ、2回生を対象としたキャリア演習として「丹後王国」でのインターンシップを実施し、7名の学生が参加しました。またCOC+インターンシップには、「梅本農場」に1名が参加し、自然農法による野菜作りに取り組みました。

### 成果

学生はインターンシップを通して、丹後地域の自然、食、歴史などの魅力や人口減少などの課題に気づき、多角的な視点から地域創生を考え、新商品企画や広報、定住化計画など多岐にわたる提案を行いました。また、地域の特色を生かした仕事についても知ることができ、自分の将来設計を考える上でも有意義で満足度の高い演習となりました。



「丹後王国」での野菜直売所業務



「丹後王国」での広報業務(イベント取材)

### 実施概要

日時： 2017年8月16日(水)～20日(日)	日時： 2018年3月4日(日)～6日(火)
場所：丹後王国(京丹後市)	2018年3月19日(月)～22日(木)
	場所：梅本農場(京丹後市)

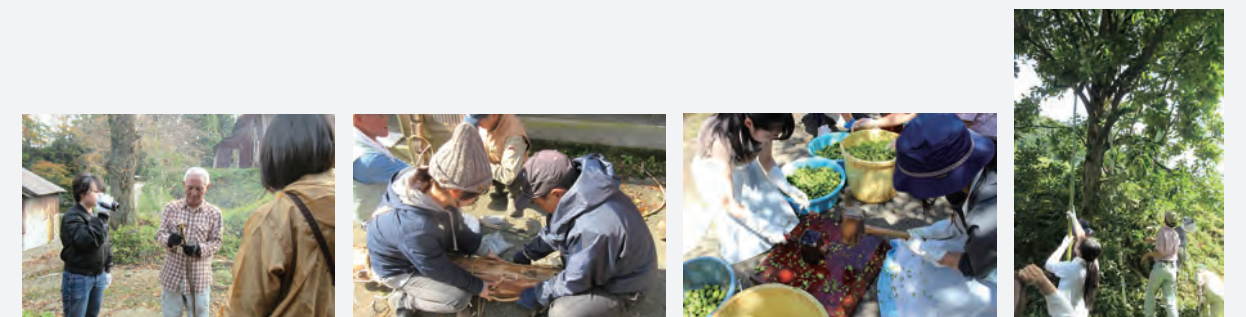
## 4. 学生たちの有志チームの活動

### 取組内容

有志の学生13名が「COC+学生チーム」を結成し、「地域創生フィールド演習」の様子や、宮津市上世屋地区の伝統的な技術(柿渋づくり、かんじきづくり)を体験する様子を動画にまとめました。



学生が参加した演習の様子をプロモーションビデオにし、後輩に配信



上世屋(宮津市)でのかんじき作り

上世屋(宮津市)での柿渋づくり

### 成果

COC+学生チームは、各自の演習先や上世屋において動画や写真の撮影を行い、それらを基に動画の作成を行いました。動画制作のノウハウの修得とともに、グループで取り組む力も身につきました。動画は講義やCOC+のホームページ(<http://www.kpu-coc.jp>)、フェイスブックで紹介し大変好評を得ました。



## II. 「地(知)の案内人」、事業協働機関との連携

京都府立大学

京都府立大学

### 1. 「地(知)の案内人」の登録者を 18 名追加し、計 54 名に増加

#### 取組内容

演習やインターンシップ先での現地講師である「地(知)の案内人」の新たな分野として、漁業関係者、および自治体や行政関係者(舞鶴市、宮津市、福知山市)を登録しました。各拠点の受入体制を強化するため、必要に応じて、各拠点に複数の「地(知)の案内人」を選任しました。平成 29 年度末には、39 拠点 54 名となり、5 年間の目標である 50 名を達成しました。



#### 成果

「地(知)の案内人」の分野の拡充と体制強化を図ったことにより、学生の演習に対する選択肢が増えるとともに演習への関心が高まりました。講義で地域創生の施策を説明していただいた結果、自治体の地域創生施策への理解が深まり、自治体への就職を希望する学生が自治体の仕事に対して具体的なイメージを持てるようになりました。

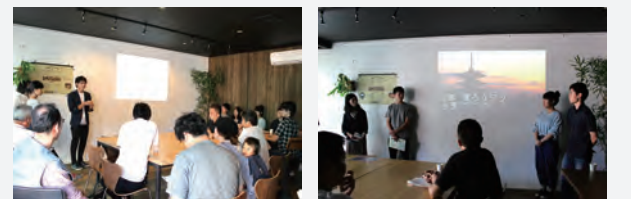
### 2. グローカル人材開発センター、京都府北部地域・大学連携機構との連携強化

#### 取組内容

事業協働機関との連携・協力により、京丹後市、舞鶴市の「地(知)の案内人」の拠点においてCOC+カフェを開催するとともに、北部PBLの企画検討などにおいて連携を図りました。地域コミュニティの交流の場として親しまれるつねよし百貨店では、「地域創生フィールド演習」の報告を行い、学生の質問に対して地域の皆さんから率直な意見をいただきました。舞鶴市の商店街にある日替わり店長のお店FLAT+では、演習に参加した学生と「地(知)の案内人」が、演習の成果について発表しました。「地(知)の案内人」からはこれまでの経験や学生への期待についてお話しいただき、まちづくりに関わる地域住民からは学生に対して舞鶴市の印象について質問がありました。カフェの様子はFMまいづるで放送され、学生がカフェの実況中継を担当しました。



つねよし百貨店(京丹後市)でのCOC+カフェ



FLAT+(舞鶴市)でのCOC+カフェの様子

#### 成果

学生からは、「実際に地域に行き、地域の方がどのような経緯で今の仕事をされ、どのような思いで活動されているかを学ぶことが、将来的に地域に関わるときの手助けになると感じた。」などの感想が聞かれ、地域への理解が深まったことがうかがわれました。北部PBLの企画立案においては、COC+の事業協働機関から有効なアドバイスを得ることで、今後の取り組みに向けた協力関係を築くことができました。

#### 実施概要

日時：2017年9月29日(土)～30日(日)  
場所：つねよし百貨店(京丹後市)、FLAT+(舞鶴市)  
学生：1回生～3回生 10名

### その他 京都府北部での活動

#### 宮津まちなみシンポジウム vol.8 「花街・新浜のなりたちと景観」に参加

「宮津まちなみシンポジウム」に、舞鶴工業高等専門学校とともに参加しました。NPO法人天橋作事組での地域創生フィールド演習に参加した環境デザイン学科2回生が、調査に同行して学んだことを「溝尻舟屋と宮津のまちなみ」というテーマで発表しました。また、宮津メディアセンターの演習に参加した学生は、和火(やわらび)に携わる人々を取材した動画「やわらびと」を上映しました。パネルディスカッションでは、「みやづの景観と地域経済を考える」というテーマのもと、「地(知)の案内人」であるゲストハウス「ハチハウス」の寺尾菜々オーナー、京都府立大学松田法子講師、奥谷三穂COC+特任教授が、舞鶴工業高等専門学校の尾上亮介教授とともに登壇しました。かつて宮津の花街だった新浜を中心とする歴史的景観の話から、町家を活用したゲストハウスやカフェなど新たな活動まで、幅広い議論が行われました。



シンポジウム、パネルディスカッションの様子

#### 実施概要

日時：2017年10月28日(土)10:00-17:00  
場所：みやづ歴史の館(宮津市)  
学生：2回生1名  
教員：2名  
一般参加者：約50名



## I. インターンシッププログラムの推進

京都学園大学

### 1. 南丹地区の協定企業等へのインターンシップをさらに充実

#### 取組内容

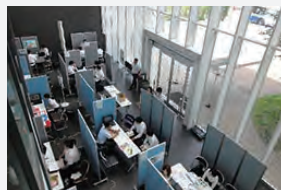
平成29度もインターンシップの調整を進め、京都府北中部の7事業所および南丹地区の1事業所を含む、計21のインターンシップ先を新たに開拓しました。  
事業協働機関である亀岡商工会議所でもインターンシップを実施しました。また、同会議所と連携した「亀岡物産フェアin トロッコ嵯峨駅」へ、留学生が出展企業と外国人観光客との通訳として参加しました。



亀岡商工会議所でのインターンシップ



南丹市情報センターでの  
インターンシップ



合同説明会



平松茂生  
亀岡物産フェア in トロッコ嵯峨駅

#### 成果

南丹地区だけでなく、京都府下にある地元企業の認知度全体が向上しました。地元でのインターンシップを拡大していくことで、これまで知らなかった、小さいながらも独自の強みを持つ企業の存在を学生が知り、企業規模に限定しない価値観の多様化を生み出すきっかけになり、地元就職への意欲が向上しました。

亀岡商工会議所が主催する物産フェアは、留学生にとって亀岡の企業を知る良い機会となり、亀岡と留学生をつなぐ貴重な場となりました。

### 2. 長期インターンシップへの参加者を倍増

#### 取組内容

アドバンスト・インターンシップ・プログラム(AIP)や、グローバル・インターンシップ・プログラム(GIP)という長期インターンシップ、看護学科・言語聴覚学科の長期実習への参加者が増加し、派遣先も11増加しました。看護学科・言語聴覚学科の学生は、地元の病院などで長期実習を体験しました。AIPでは、地元・京都の企業で3か月間の実習を行い、企業での実務と大学での学びを接続するための学修を企業実習の前後に実施しています。学生がAIPの参加を通じて多くの経験や気づきを得ることが、このプログラムの大きな特徴です。GIPでは、約2か月半中国・南通大学での中国語学習と中国を中心とした東アジアの経済社会の実態を学修した後、約2か月半中国企業・中国進出企業・団体に企業留学し、海外においてどのようにビジネスが展開されているか、学生たちが身をもって体験をすることができます。



アドバンスト・インターンシップ・プログラム (AIP) の様子



グローバル・インターンシップ・プログラム(GIP)の様子



#### 成果

看護学科・言語聴覚学科の実習では、地域の病院の特徴を把握することで自分の希望や特性と照らし合わせたり、実際に働いている方と接することにより、学生が自らの知識や患者さんとの接し方の足りない部分を補うことにつながりました。こうした体験が就職における学生自身のモチベーションにつながり、地元で貢献できる人材育成を進めることができました。

AIP、GIPの長期インターンシップでは、経験をもとに学生の発想で、新たなビジネス展開に結び付けられないか考えるきっかけとなりました。本プログラムを通じて、企業側の新たな分野の開拓と、学生のモチベーションアップにつなげ、大学と地域企業とwin-winの関係の構築を目指しています。

## II. 地元企業、農業団体との連携

京都学園大学

### 1. 地域企業と連携した商品開発、一次加工及び商品化を実現

#### 取組内容

京都の老舗蜂蜜店、伏見の酒蔵と連携し、京都産のはちみつを使ったミード(蜂蜜酒)の開発・販売を実現しました。学生の参加する実践プロジェクトの梅クッキープロジェクトでは、梅クッキーを開発・改良し京野菜フェスティバル等にて紹介しました。麴甘酒プロジェクトでは、独自の麴甘酒・スイーツを開発、製造し、学園祭に出店しました。また、連携する「特産物を考える会」では「かめまるいも」を使った漬物の製作に取り組み、平成29年度中に試作品が完成しました。



京都産のはちみつを使ったミード  
(蜂蜜酒)



完成した梅クッキー



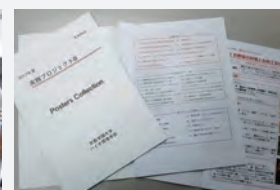
肉フェスタ、京野菜フェスティバルでの梅クッキー紹介の様子



食品開発センターでの麴甘酒スイーツ製造風景



学園祭での麴甘酒スイーツ開発、学園祭での紹介の様子



実践プロジェクトのポスター発表会の様子



「かめまるいも」を使った漬物の試作品

#### 成果

プロジェクトが新聞等でも取り上げられ、取り組みの認知度が向上しただけでなく、学生の地元への愛着につながりました。学生にとっては、自らのアイデアが商品開発につながったことで、達成感を感じられただけでなく、更に改良しようという意欲が芽生えた点でも高い教育効果が得られました。また、地域の他の事業所との連携の契機にもなりました。



## 2. 地元農業団体と講演会・交流会を開催

## 取組内容

新種苗開発センターに関連した活動として、地元の農業者の団体である「特産物を考える会」との共催で講演会・交流会を開催しました。本学バイオ環境学部藤井康代教授が「地球を冷やすおいしい話～亀岡カーボンマイナスプロジェクト」について講演を行い、炭の作り方や、作物の栽培実験を紹介しました。亀岡市・立命館大学・龍谷大学と共同で取り組んでいる本プロジェクトは、農業に炭を使用することで、二酸化炭素の削減を目指し、付加価値をつけて農山村復興を目指しています。講演会の後、亀岡のかめまるいも及び新規に育成した野菜の栽培についての意見交換会を行いました。亀岡市の特産品である「かめまるいも」や新種苗開発センターで改良された、亀岡市の特産品である「かめまるいも」、京丹波菜（小松菜の仲間）で丹波菜の復活品種）、なつさや（ササゲ品種）などの栽培について意見交換が行われました。

地元の農業者団体「特産物を考える会」との共催で講演会・交流会を開催しました。立命館大学久保幹教授による「有機農業の可能性～有機農産物は地域の特産物になり得るか？～」についての講演が行われ、健康な農作物を作るための健康な土の必要性などに触れられました。

亀岡の「かめまるいも」及び新規に育成した野菜の栽培についての意見交換会」では、本学の学生が実践プロジェクトで取り組んだ、「かめまるいも」の調理方法について紹介しました。



12月16日（土）「特産物を考える会」との共催による講演会・交流会の様子



2月17日（土）「特産物を考える会」との共催による講演会・交流会の様子



## 成果

大学周辺の多くの農業者が参加し、活発な意見交換を行うことができました。大学と地域の農業者との関わりをより密にし、農業の活性化・地域の活性化につながる活動となりました。

## 実施概要

## 新種苗開発センター講演会・交流会

日時：2017年12月16日（土）13時30分～16時30分  
場所：亀岡キャンパス バイオ環境館  
講師：藤井 康代 バイオ環境学部教授

日時：2018年2月17日（土）13時30分～16時30分  
場所：亀岡キャンパス バイオ環境館  
講師：久保 幹 立命館大学 教授

## 3. 業界研究セミナー（京都府寄付講座）

## 取組内容

事業協働機関である京都府のジョブパークの支援を得て、地元企業による学生向けの業界研究セミナーを2回実施しました。

## 成果

学生たちは、身近にある商品を扱っている会社や有名企業のみに目を向けがちですが、業界研究セミナーは、地元企業のこだわりや業界全体を知る上で、非常に貴重な機会となりました。出席した学生からは、「技術力のある企業のお話やOBのお話を聞ける機会がこれまでなかったので、得られたものが大きい」「企業の特徴をしっかりと知ることができた」「これまで志望していた分野以外の業界にも興味が出てきて、視野が広がった」「大企業ではなく地域の特性を活かした中小企業を志望しており、地域の中小企業を知るよい機会になった」などの積極的な感想が

## 実施概要

## 第1回業界研究セミナー

日時：2017年10月11日（水）12:40～14:10  
場所：京都太秦キャンパス  
講師：山田 洋平 株式会社山田松香本店（江戸時代から続く老舗香本店）  
竹内 達哉 旭金属工業株式会社（航空・宇宙・電子力機器部品製造）  
学生：48名

## 第2回業界研究セミナー

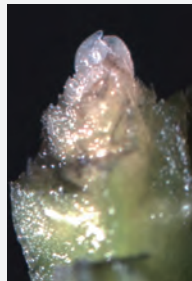
日時：2017年10月18日（水）13:20～14:50  
場所：京都亀岡キャンパス  
講師：松田 直子 株式会社 Hibana（森林バイオマス利用促進企業）  
竹田 麻里 株式会社三笑堂（医療機器専門商社）  
宮川 光太郎 こと京都株式会社（九条ネギの生産加工販売）  
学生：67名

聞かれました。地元で業界1位の企業があることを知ったり、新たな産業構造の一角を担う6次産業を知ること、学生にとって就職に対する選択の幅が広がったことがうかがわれました。

## 1. 茎頂培養による「かめまるいも」の無病苗生産

## 取組内容

培養に関わる無菌操作をクリーンベンチ（2017年度購入）内で行い、培養は23℃、12時間日長に設定した人工気象機（2017年度購入）で行いました。第1図に示したような直径約0.4mmの茎頂に葉原基を1枚つけた組織を、クリーンベンチ内に入れた実体顕微鏡下で切り取り、培養しました。基本培地を半分濃度に希釈した寒天培地を用いました。培地に植物ホルモンを加えないと茎頂組織は枯死しましたが、1μMのナフタレン酢酸（合成オーキシシン）を加えると出葉して小植物体が得られました（第2図）。伸長した個体の節を植物ホルモンを含まない培地に継代培養することにより、増殖することができました（第3図）。得られた幼植物を試験管内で3ヶ月程度培養を続けると、担根体が形成されました（第4図）。この担根体を厚さ2mm程度にスライスして植物ホルモンを含まない培地で培養すると、シュートを形成しました。以上の結果から、「かめまるいも」の試験管内増殖は節培養および小担根体（micro-rhizophre）切片培養が有効であることが分かりました。



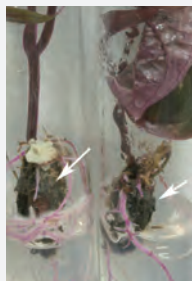
第1図 「かめまるいも」の茎頂



第2図 2ヶ月間培養した「かめまるいも」の茎頂



第3図 茎頂培養によって得られた「かめまるいも」の幼植物



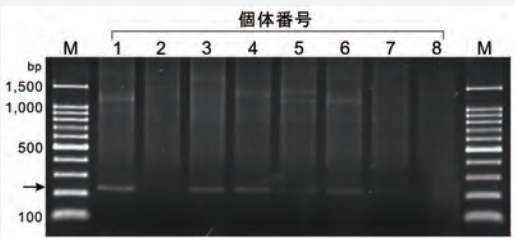
第4図 約3ヶ月の培養で得られた小担根体（矢印）

## 2. 「かめまるいも」のウイルス感染についての研究

## 取組内容

昨年度に引き続き、亀岡市の「かめまるいも」栽培農家10軒の圃場から葉を採取し、RT-PCRによりヤム・マイルド・モザイク・ウイルスの検定を行いました。葉組織の粉碎にはオートミル（2016年度購入）を、RNA抽出工程には高速微量遠心機（2017年度購入）を用いました。また、RNAの逆転写およびウイルス特異的遺伝子の増幅にはPCR（2016年度購入）を用いました。検定の結果、昨年度同様、約8割の個体からこのウイルスが検出されました。

日本のヤマノイモ属植物において感染が多いとされる、ジャパニーズ・ヤム・モザイク・ウイルス（JYMV）の検定のために、新たにプライマーを設計しました。その結果、第5図に示したようなJYMV特異的と思われるDNA断片が確認されましたが、バンドが複数見られるので、引き続き検討を行っています。



第5図 JYMV 特異的プライマーによる PCR 産物の電気泳動結果  
M: 100 bp ラダーマーカー  
矢印: JYMV 特異的と思われるバンド

## 注1、2 「ウイルスの検出方法」

生物の性質はDNA分子で構成される遺伝子に書き込まれた情報によって決められており、生物種によりそのコード情報は異なります。その特異的な情報だけを特異的なプライマーと呼ばれる短いDNA分子を使って探し出す技術をPCRと呼んでいます。探し出したDNA分子は目では見えないので、電気泳動という手法を用いて、「バンド」として遺伝子の存在を確認します。ヤム・マイルド・モザイク・ウイルスのような植物に感染する多くのウイルスの遺伝子はDNAではなくRNAです。そこで、一旦RNAを鋳型にしてDNAを合成してからPCRを行うのがRT-PCRです。この手法によって植物体内に特定のウイルスが存在するかどうか分かります。

## 今後の取組について

本研究の結果、現在亀岡で栽培されている個体のほとんどがウイルスに感染している可能性が示されました。また、無病苗を生産するための基本的な技術開発も進展させることができ、本学学生も関わってきました。今後、「かめまるいも」は乾燥品、焼酎などの加工製品として生産量を増加させようという計画が農家側（特産物を考える会）では進んでいます。「かめまるいも」のように栄養繁殖する作物の恒久的、安定的な生産のためには無病苗の育成事業は必須です。もし、農家レベルもしくは他の企業レベルで苗生産施設ができるならば、新たな雇用の創出が期待できます。



1. 教育プログラムの実施報告

取組内容

舞鶴高専では、COC事業で築いた地域とのつながりを生かし、3つの事業の12のプログラムを実施することにより学生の地域志向マインドを向上させ、地域を担う人材育成を推進しています。

学生の地域志向マインドを向上させ、地域を担う人材育成を推進する  
3つの事業・12のプログラム

		プログラム名	学科・部門
事業1 地域の企業や自治体と連携して 地域を担う人材育成を推進する	事業1	1-1 いきいき健康街づくりの推進	自然科学部門
		1-2 地域企業との連携による地域を担う機械技術者の育成	機械工学科
		1-3 地域企業との連携による地域を担う電気技術者の育成	電気情報工学科
		1-4 地域企業との連携による地域を担うメカトロ技術者の育成	電子制御工学科
		1-5 京都の工務店、設計事務所、自治体との連携による地域を担う建築技術者の育成	建設システム工学科
事業2 地域の学習と研究を通じて学生の 地域志向マインドを向上させる	事業2	1-6 京都府の社会基盤メンテナンスを担う建設技術者の育成	建設システム工学科
		2-1 「まちづくり」計画の学習と立案	人文科学部門
		2-2 京都府北部の埋もれた文化財の発見と活用	人文科学部門
事業3 地域への公開講座を通じて学生の 地域志向マインドを向上させる	事業3	2-3 巡礼学びのプログラム	人文科学部門
		3-1 防災教育と理科教育	自然科学部門
		3-2 電気電子工作、プログラミング	電気情報工学科
		3-3 小中学生ロボコン大会	電子制御工学科

※ 12のプログラムの一部をご紹介します。

平成28年度から開始している、3つの事業・12プログラムすべてについて、報告書を作成し実績をまとめました。一部のプログラムはCOC＋フォーラムや大江能楽堂での発表会において実施状況を報告し、参加者からご意見をいただきました。COC＋の実施状況を外部評価委員会、舞鶴高専地域テクノアカデミア総会などで報告しました。出席者からは、「COC事業から続く協働を通じて、高専が身近な存在になった」、「COC＋事業の成果として、地域と舞鶴高専の距離が縮まったのを感じている」「学識経験者や専門員として、多くの先生方や学生の取組にお世話になっている」などの評価を頂きました。



舞鶴高専地域テクノアカデミア総会の様子



成果

全プログラムを振り返ったうえで、学外の方からご意見や評価をいただくことにより、プログラムの改善をすることができました。また、発表した学生にとっては、プレゼンテーション能力を向上させたり、専門知識を充実させる良い機会となりました。

実施概要

舞鶴高専COC事業プロジェクト評価会議（外部評価委員会）  
日時：平成30年3月27日（火）10:30～12:00  
場所：舞鶴工業高等専門学校 大会議室

舞鶴高専地域テクノアカデミア総会  
日時：平成29年6月27日（火）11:00～12:00  
場所：宮津ロイヤルホテル

2. 各プログラムの充実（地域を担う機械技術者育成プログラム）

取組内容

4つの地域志向科目において、舞鶴高専地域テクノアカデミア会員企業等の支援を得て、学生が製品の企画から生産、販売までの流れを体験しました。

- ・株式会社椿本チエインで開発されたジップチェーンアクチュエータを用いて「人の動きを“楽”にする装置」の企画・プレゼンテーションを行いました。
- ・オムロン株式会社綾部工場の協力を得て、部品を自動整列させる機構の考案に取り組み、成果をプレゼンテーションしました。
- ・一志株式会社で、冷間鍛造のライン業務を体験しました。
- ・日東精工株式会社と協力してネジの強度を高める手法について調査、開発、実験確認を実施しました。



「人の動きを“楽”にする装置」の企画

この他にも、府内企業6社への企業見学を実施しました。



部品を自動整列させる機構の考案・プレゼン



「人の動きを“楽”にする装置」のプレゼン



日東精工 /  
舞鶴高専共同研究成果発表会



株式会社インダ見学



株式会社椿本チエイン見学



一志株式会社見学

成果

地元企業の支援を得て、機械工学科の80名が製品開発の流れを体験しました。学生は技術者の指導のもと、グループワークやプレゼンテーションを行い、地域に貢献できる機械技術者としての能力を磨くことができました。地域企業の高い技術に触れることで、地域志向マインドを高めることができました。

実施概要

- 企業見学  
株式会社インダ、株式会社椿本チエイン  
日時：平成29年7月21日（金）  
学生：機械工学科4年生25名  
  
株式会社ダイソー  
日時：平成29年12月08日（金）  
学生：機械工学科4,5年生9名  
  
一志株式会社  
日時：平成29年12月08日（金）  
学生：機械工学科4年生8名  
  
村田機械株式会社  
日時：平成30年1月24日（水）  
学生：機械工学科3,4年生  
  
ガンゼ株式会社  
日時：平成30年2月23日（金）  
学生：機械工学科2,4年生
- 企業との共同研究成果発表会  
平成29年度 日東精工 /  
舞鶴高専共同研究成果発表会  
日時：平成30年2月26日（月）  
学生：機械工学科5年生



## 3. 各プログラムの充実（地域を担う電気技術者育成プログラム）

## 取組内容

「海の京都」「森の京都」と連携して学生たちが3つのアプリを開発し、赤レンガフェスタなどで展示しました。

- ① 舞鶴の名所に興味を持ってもらうため、一昔前の写真と合成することでタイムスリップ感覚を味わえる携帯アプリ
- ② 舞鶴の名所を上空から観察するため、ジャンプの高さに応じて、見る高さがかわるマルチデバイスアプリ
- ③ 自分の街に興味を持ってもらうため、仮想の街を作り、配置したブロックの間の道を、車や人などが歩くまちづくりアプリ



赤レンガフェスタでの展示



① レトマップ（古い写真との合成）



② ジャンプの高さに応じて空からの見る高さが変わるアプリ



③ まちづくりアプリの体験の様子

## 成果

アプリの試作品の展示では、来場者楽しんでいただくと同時に、多くのご意見をもらいました。地域に役立つアプリの開発により、学生たちは地域志向マインドを育むと同時に、技術者としての能力を向上させることができました。

## 4. 各プログラムの充実（まちづくり計画の学習と立案）

## 取組内容

1. 地域を知る！（外部有識者による講演会）  
私たちの住む京都府北部地域の社会・経済について深く知ってもらうため、各界の方々をお招きしてそれぞれの専門的な見地からご講演をいただきました。
2. 舞鶴市政を見てみよう！  
地方自治体の活動についてイメージを広げてもらうため、舞鶴市議会の傍聴や、「舞鶴版『地方創生』」についての市民レビュー」の参観を行いました。
3. 地域還元型の取り組みを企画・実践しよう！  
地域に何かを還元できる取り組みを、学生たち自身で企画し、実行に移してもらうという課題です。大規模商業店舗での舞鶴高専PRイベントや、舞鶴の風景をHP上で閲覧できる「舞鶴時計」の公開などを行いました。



京都北部信用金庫地域創生事業部長 足立 渉氏による講演



イオン福知山店で行った舞鶴高専PRイベント

## 成果

まちづくり計画の立案を通じて丹後を中心とした京都府の特色や課題を理解するとともに、地域への愛着を育み、地域貢献への意欲を高めることができました。

## 5. 各プログラムの充実（学生が参加する防災教育・理科教育公開講座の運営手法を確立）

## 取組内容

平成29年度はCOC+事業として、防災教育と理科教育に関連する内容で、6回の公開講座を行いました。昨年度に引き続き、7月に開催された舞鶴市の八島商店街でのイベント「はまっこ夜の市」、11月4日・5日に開催された高専祭など、多くの市民の皆さんが参加するイベントにあわせて、光や振動について学習するための公開講座を4回、防災に関する公開講座を2回実施しました。当初の予定では、上記のイベントに加え、10月に福知山市で開催予定の「中丹絆フェスタ」の際にも防災について学ぶ公開講座を行うことになっていましたが、直前の台風による被害のため、残念ながら中止となりました。7月の「はまっこ夜の市」の際には4回の公開講座で延べ300名以上、11月の高専祭の際には350名以上の方に公開講座に参加していただき、簡単なおもちゃ作りを通して光の性質や振動について学習したり、防災について考えていただくことができました。これらの公開講座には延べ32名の学生が公開講座当日や事前準備にスタッフとして参加し、地域の皆さんとの交流を深めました。



紫外線チェッカーの作製



振動で回るコマの作製



分光を利用した光の万華鏡の作製



模型による土砂崩れ防止の実演

## 成果

防災教育・理科教育公開講座は、数百名の小中学生や市民が参加する重要な地域貢献事業となっています。これらの公開講座には数十名の学生が講師として参加し、地域住民と触れ合うことにより、地域志向マインドを高めています。また、学生にとっては、自身の専門知識を生かしたり、プレゼンテーション能力を向上させる良い機会となっています。



## I. 京都府南部の中小企業へのインターンシップ

京都文教大学

### 京都府南部の中小企業へのインターンシップの参加者増

#### 取組内容

「地域インターンシップ」(平成28年度から正課科目化)の受講者数が、昨年度から倍増の42名となりました。京都中小企業家同友会の宇治支部・伏見支部の協力を得て、6事業所(マッチング結果は5事業所)の受入先が確保できました。他にも府内の13事業所を含む計18事業所において学生が実習を経験することができました。建学の理念「ともいき(共生)」に共感し、インターンシップやPBL、事業所見学などを通じた学生の育成に協力いただける京都府南部地域の企業、事業所等をネットワーク化する「京都文教ともいきパートナーズ(以下、ともいきパートナーズ)」を立ち上げました。「ともいきパートナーズ」の意見交換会や京都中小企業家同友会伏見支部の産学連携例会では、インターンシップをテーマに学生と地元企業との交流を図ることができました。



地域インターンシップの様子



ともいきパートナーズ意見交換会の様子

京都中小企業家同友会伏見支部 産学連携例会の様子

#### 成果

「ともいきパートナーズ」の意見交換会では、地元企業、行政、商工会議所などの関係者でグループ討論を行いました。インターンシップの受入実績がない企業等においても、事例報告や受入実績のある企業担当者との意見交換を通じて、学生を受け入れる機運が高まったようです。業界別や職種別、複数企業での受け入れなど、新たなインターンシッププログラムに向けた提案もありました。京都中小企業家同友会伏見支部の産学連携例会では、インターンシップに参加した学生と、受入担当者をパネラーにパネルディスカッションを行いました。その後、「学生にとって働いてみたい会社」「働きやすい会社にするために経営者として工夫できること」をテーマにグループ討論を行いました。中小企業経営者と学生の交流を図ることができ、参加企業に対し本学のインターンシッププログラムを知ってもらう絶好の機会になります。地元の中小企業を知る機会がほとんどない学生にとって、地元中小企業でのインターンシップや中小企業経営者との交流を通じた経験が、その後の学生生活や進路選択に大

きな影響を与えることになりました。今年度から宇治商工会議所が事業協働機関となり、「ともいきパートナーズ」への参画や意見交換会への参加依頼など、会員企業へのアプローチがしやすくなりました。地元企業でのインターンシップを核に、PBLや「初級地域公共政策士プログラム」との接続、就業支援へ発展させていくモデルとしての実績を積み重ね、地元企業との「ともいき」の実現を目指しています。

#### 実施概要

##### ともいきパートナーズ意見交換会

日時：2017年11月16日  
場所：京都文教大学14号館14202教室  
参加者：学外40名、学内15名

##### 京都中小企業家同友会伏見支部の産学連携例会

日時：2017年11月30日  
場所：京都市伏見区役所  
参加者：企業経営者40名、学生25名

## II. 事業協働機関と連携した人材育成

京都文教大学

### 「初級地域公共政策士プログラム」との接合

#### 取組内容

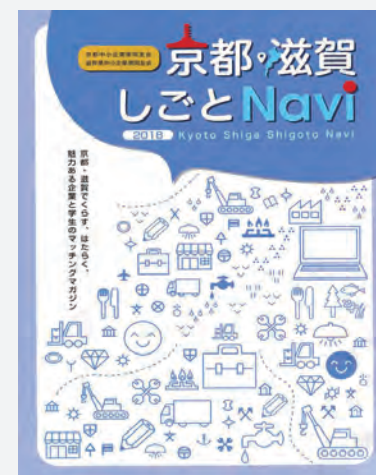
COC+の事業協働機関であるNPO法人グローバル人材開発センターが社会的認証する「グローバルプロジェクトマネージャー(GPM)」資格や初級地域公共政策士「グローバル人材資格」プログラムに関連する演習科目「地域公共政策士総合演習C」「グローバル人材PBL演習」において、京都中小企業家同友会から課題をいただき、PBL実践に取り組みました。京都中小企業家同友会が会員企業の採用活動のために作成する「企業紹介冊子」の特集記事の編集を通じて、中小企業の現状や採用動向、個別の企業概要等について学ぶことができました。両科目を受講する12名の3年次生にとっては、就職活動を本格化させる前に、府内の中小企業について調査、フィールドワークするよい機会となりました。



経営者、社会人との座談会



経営者インタビュー



「京都・滋賀しごとNavi」  
京都中小企業家同友会、  
滋賀県中小企業家同友会 発行

#### 成果

授業の一環として、京都中小企業家同友会、滋賀県中小企業家同友会が発行する『京都・滋賀しごとNavi2018』の編集作業に携わり、経営者インタビューや社会人と学生の座談会を実施することで、働くことの意味や企業理念、中小企業で働くメリットなどを紙面にまとめ、発信することができました。また、京都中小企業家同友会の会員企業が実施した求人活動の実態を、「観察」「ヒアリング」「アンケート分析」などの手法で調査し、得られたデータをSWOT分析などビジネスの現場で用いられる方法で整理し、客観的根拠にもとづいた評価と改善策の提案に繋がりました。



### III. 高大接続の取り組み

京都文教大学

#### 「全国まちづくりカレッジ in 宇治 2017」

##### 取組内容

入学生の約5人に1人が京都府宇治市以南に居住していることもあり、地元の高校生を対象とする高大接続事業を進めています。「全国まちづくりカレッジin宇治2017(以下、まちカレ)」には、北海道から九州まで大学14校、高校3校、25団体、230人が参加しました。府南部地域で地域連携に取り組む、京都すばる高等学校、木津高等学校、田辺高等学校の生徒も参加し、本学学生とともに活動報告やフィールドワークを体験しました。

また、専願入試等で入学が確定している高校生を対象に、入学前教育プログラム「One Day Campus」の一環として、ともいきフェスティバル2017、プロジェクト科目合同成果発表会、卒業論文発表会などに参加できる機会を設け、オープンキャンパスよりさらに深く大学の実際の学びに触れる場を提供しました。



全国まちづくりカレッジ in 宇治  
木津高校の報告



全国まちづくりカレッジ in 宇治  
京都すばる高校の報告



全国まちづくりカレッジ in 宇治  
田辺高校の報告



全国まちづくりカレッジ in 宇治  
グループワークの様子



入学前教育プログラム「One Day Campus」  
プロジェクト科目合同成果発表会

##### 成果

学生と地元の高校生が「まちカレ」に共同参加することで、全国各地でまちづくりに取り組む学生の活動を知ることができました。また、引率した高校教員にも、学生が地域で活躍する様子を知ってもらうよい機会となりました。

府南部で「高・大・地・産」接続を進めるにあたり、近隣行政との協定締結や商工会議所等との連携に加え、地元企業と協働した近隣高校との高大接続プログラムの展開(インターンシップやPBL等)が必要という課題も見えてきました。

##### 実施概要

全国まちづくりカレッジ in 宇治 2017  
日時：2017年9月15、16日  
場所：京都文教大学、宇治市内  
参加者：大学14校、高校3校、計230名

### IV. 企業見学や就職フェアの実施

京都文教大学

#### 地元企業見学ツアーや就職フェアの開催

##### 取組内容

授業内や課外プログラムでの地元企業等の見学を計17回実施(356名が利用)しました。

京都府の補助事業「1まち1キャンパス」事業の一環として、また、事業協働機関である丹後機械工業協同組合の支援を得て、京丹後市内のものづくり企業を見学するバスツアーを2泊3日で8月に実施しました。宿舎は京都工芸繊維大学の京丹後キャンパスを利用しました。

「プロジェクト科目(地域)」の「公務員と考える未来のキャリアクラス」では、京都府山城広域振興局の協力のもと、府南部地域企業の社長、役員を招いた「KBUプレジデント・セミナー」を実施し、学生のキャリア意識の涵養に努めました。

また、平成28年度に続き、宇治市が主催する合同企業説明会への協力として、「地域で働く魅力発見セミナー」を学内実施し、就職セミナーの講師として、「ともいきパートナーズ」参画企業から社員を派遣いただきました。京都中小企業家同友会が主催する「共同求人・合同説明会」に参画する企業向けの勉強会/研修会の講師を本学の就職進路課担当者が担当し、中小企業が学生にアピールする際に必要な視点や学生の志向、現状などについて情報提供を行いました。

キャリアフェアとして、小学校や医療福祉の現場で働く本学卒業生を招いて、仕事や学生時代の話をしてもらいました。大学での学びや将来のキャリアデザイン、進路選択の支援につなげることができました。



地元企業・事業所の見学ツアー



KBU プレジデント・セミナー



企業見学ツアー in 京丹後

##### 実施概要

企業見学ツアー in 京丹後  
日時：2017年8月3日～5日  
場所：京丹後市内  
参加者：6名

地域で働く魅力発見セミナー  
日時：2018年1月17日  
場所：京都文教大学普照館 F508  
参加者：13名

「共同求人・合同説明会」に参画する  
企業向けの勉強会/研修会  
(京都中小企業家同友会)  
日時：2018年1月30日  
場所：京都府中小企業会館  
参加者：55名

KBU プレジデント・セミナー  
(京都府寄付講座)  
日時：①2017年11月15日  
②2017年12月6日  
場所：京都文教大学普照館 F508  
参加者：45名

久御山町企業見学ツアー  
日時：2018年2月13日  
場所：久御山町内企業 2社  
参加者：12名

##### 成果

行政や経済団体と連携した授業や課外プログラムを実施することで、学生が京都府南部地域の優良企業や中小企業について知ることができました。「ともいきパートナーズ」のネットワークを通じて、企業の経営者や社員が大学に赴く、学生が地元の事業所へ見学に行く、インターンシップやPBLに取り組むなど、就職活動とは違ったかたちで、学生と社会人が交流する機会を創出してきました。学生と教職員が地元企業・事業所と日常から顔を合わせることで、就職活動時の丁寧なマッチングを促進し、就職後のミスマッチを防ぐことにもなります。また、事業協働機関である丹後機械工業協同組合の会員企業に2年続けて卒業生が就職することになりました。平成30年2月には、これまで包括連携協定を締結していた宇治市、京都府に加え、久御山町とあらたに協定を締結しました。久御山町内企業を見学するバスツアーを実施し、平成30年度の久御山町役場、久御山町企業でのインターンシップ受入にむけて調整を進めています。これらの実績をふまえ、近隣商工会議所の事業協働

機関への参画、個別の協定締結などに繋げ、「ともいきパートナーズ」の活動を通じた京都府南部地域における「高・大・地・産」接続、COC+事業終了後の事業協働機関、地元企業等とのネットワーク構築を目指します。

上段		目標値		※ H26 は申請時実績									
下段		実績値											
共通の成果に対する事業目標	事業協働地域就職率(%)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	26%	15%	28%	16%	30%	17%	35%	22%	37%	28%
		26%	15%	28%	16%	26%	18%	28%	21%				
	事業協働地域就職者数(人)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	449人	89人	483人	94人	508人	100人	674人	129人	726人	164人
		420人	89人	507人	100人	467人	112人	512人	132人				
	事業協働機関へのインターンシップ参加者数(人)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	28人	5人	47人	20人	82人	50人	136人	100人	191人	150人
		21人	2人	39人	7人	88人	50人	145人	95人				
独自の事業目標	事業協働機関からの寄付講座数(講座)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	0講座	0講座	2講座	1講座	2講座	1講座	4講座	2講座	7講座	3講座
		0講座	0講座	0講座	0講座	2講座	1講座	3講座	1講座				
	事業協働機関雇用創出数(人)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	0人	0人	3人	1人	6人	1人	7人	2人	10人	3人
		0人	0人	0人	0人	3人	3人	6人	3人				
	丹後・中丹・南丹就職者数(人)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	15人	1人	17人	2人	19人	2人	25人	3人	33人	10人
		13人	1人	29人	1人	38人	1人	36人	3人				
	事業協働地域へのインターンシップ参加者数(人)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	230人	30人	367人	50人	531人	100人	741人	200人	840人	290人
		130人	29人	239人	29人	521人	67人	654人	112人				
	事業協働機関及び北部5市2町からの事業満足度(%)	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)		H29(2017)		H30(2018)		H31(2019)	
		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学		うちCOC+大学	
		—	—	50%	—	80%	—	100%	—	100%	—	100%	—
		—	—	76%	—	100%	—	100%	—				

各校が、目標の達成に向けて、インターンシップから就職への意識づけを高める取組みを強化する必要性を共有しています。

京都COC+実行本部会議(第3回会合)



事業協働機関との全体会議として「京都COC+実行本部会議」を開催し、本事業の推進における全体方針の確認及び締結している協定の内容の実施についての協議・決定を行いました。各大学等から具体的な事例報告がなされた後、今後の連携やCOC+事業の進め方について事業協働機関からの出席者と意見交換を行いました。

実施概要

日時：2018年3月20日(火) 10時30分～12時00分  
場所：舞鶴赤れんがパーク 赤れんが4号棟1F  
議題：1. 中間評価の報告  
2. 平成29年度実績報告と平成30年度事業計画について  
3. その他(意見交換など)

教育プログラム開発委員会(第3回会合)



事業協働機関との全体会議として「教育プログラム開発委員会」を開催し、各大学等における地域志向の教育プログラム開発及び実現に向けた協議を進めました。中間評価の面接についての報告に続き、各校の教育プログラムの活動報告がなされた後、地域の現状やプログラムの方向性について事業協働機関からの出席者と議論しました。2018年度の5校共同PBLの実施についても合意を得ることができました。

実施概要

日時：2017年12月26日(火) 13時00分～14時30分  
場所：京都工芸繊維大学 3号館第1会議室  
議題：1. COC+事業中間評価・面接評価の報告  
2. COC+事業教育プログラムに関する活動報告  
3. 意見交換(今後の連携について)

コーディネータ連絡会



第10回連絡会(舞鶴赤れんがパーク)の様子

5校のコーディネータや特任教員が定期的に連絡会を開催し、各校の取り組みについての情報交換、連携についての協議を行いました。

実施概要

第8回連絡会

日時：2017年5月18日  
場所：京都府立大学管理棟2階会議室  
議題：1. 平成28年度数値目標の達成状況の確認  
2. 中間評価に向けて  
3. 事業協働機関へのヒアリングについて  
4. フォーラムの担当校について  
5. 各校からの報告

第10回連絡会

日時：2017年11月7日  
場所：舞鶴赤れんがパーク特別会議室  
議題：1. フォーラムについて  
2. 中間評価面接評価について(報告)  
3. 就職フェアについて  
4. 各校からの報告

第9回連絡会

日時：2017年8月25日  
場所：京都学園大学光風館第2会議室  
議題：1. 中間評価面接評価について  
2. フォーラムについて  
3. 各校からの報告

第11回連絡会

日時：2018年1月17日  
場所：京都文教大学常照館第1会議室  
議題：1. フォーラムについて  
2. 就職フェアについて  
3. 各校からの報告

近畿ブロックCOC+推進コーディネータ会議(第1回会合)

京都工芸繊維大学が幹事校となり、近畿ブロックのCOC+大学(滋賀県立大学、神戸大学、奈良女子大学、和歌山大学)のCOC+推進コーディネータによる課題共有と情報交換を実施しました。

実施概要

日時：2017年6月9日  
場所：京都工芸繊維大学15号館N305  
議題：各ブロックでの数値目標達成に向けた取り組みについての意見交換



## COC+フォーラム 2018 in 舞鶴 ～京都府北部の地域振興～

## 来場者アンケートの結果

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都学園大学、京都文教大学、舞鶴工業高等専門学校が主催する「COC+フォーラム2018 in舞鶴」を舞鶴市赤れんがパーク市政記念館ホールにおいて開催しました。

今回は、舞鶴工業高等専門学校、京都学園大学が主担当校として実施しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、100名の参加者が訪れ、会場は熱気に包まれました。

神戸国際大学経済学部 教授 中村智彦氏による「小規模型産学官連携の試み～山形県川西町における地域振興とインターンシップ」と題した基調講演では、地方における少子高齢化や地方経済の実情、インターンシップによる具体的な地域振興例などが紹介され、会場を魅了しました。

「地域振興を考える～京都府北部地域での試み」をテーマとしたパネルディスカッションでは、舞鶴市 堤茂副市長、細井工業株式会社 細井正敏代表取締役社長、神戸国際大学 中村智彦教授、舞鶴高専 上杉智子准教授らが、舞鶴高専 高谷富也教授のコーディネートのもと、京都府北部地域での地域振興の現状やこれからの展望について、活発な意見交換を行いました。

各校のCOC+事業の取り組みを紹介するパネル展示では、学生等が来場者に説明を行い、質問に答えました。また、舞鶴工業高等専門学校が行ってきた平成25年度文部科学省採択「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の集大成となるパネル展示も行いました。

次年度のフォーラムは、京都文教大学と京都府立大学の2校が担当し、京都府南部で開催する予定です。



舞鶴工業高等専門学校 齋藤 福栄 校長 開会挨拶



神戸国際大学 中村 智彦 教授 基調講演



パネルディスカッションの様子



パネル展示の様子



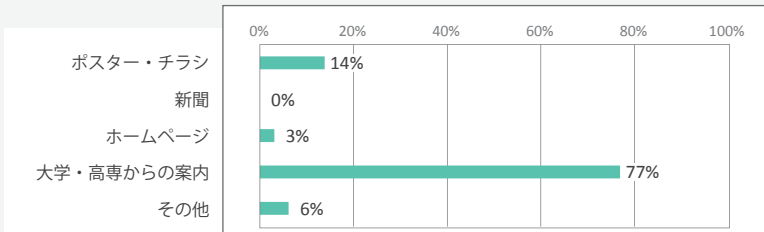
### 実施概要

日時：2018年3月20日  
場所：舞鶴赤れんがパーク赤れんが2号棟舞鶴市政記念館 1F ホール  
参加者：100名

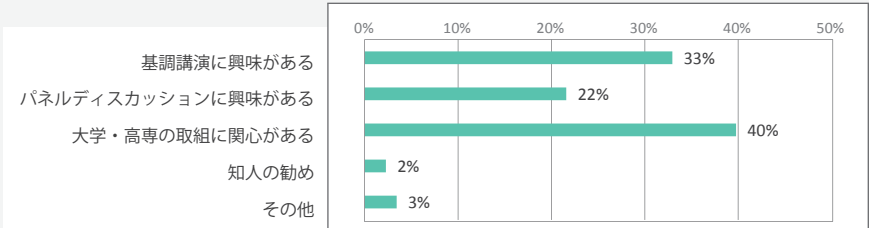
- 開会挨拶 舞鶴工業高等専門学校長 齋藤 福栄  
京都学園大学副学長 深見 治一  
来賓挨拶 舞鶴市副市長 堤 茂
- 基調講演 神戸国際大学経済学部 教授 中村 智彦  
「小規模型産学官連携の試み～山形県川西町における地域振興とインターンシップ」
- 休憩 パネル展示：各校の事業取り組み紹介
- パネルディスカッション  
テーマ「地域振興を考える～京都府北部地域での試み」  
パネラー  
舞鶴市 副市長 堤 茂  
神戸国際大学経済学部 教授 中村 智彦  
細井工業株式会社 代表取締役社長 細井 正敏  
舞鶴工業高等専門学校 准教授 上杉 智子  
コーディネータ  
舞鶴工業高等専門学校 教授 高谷 富也
- 閉会挨拶 京都工芸繊維大学長 古山 正雄

実施日時：2018年3月20日  
実施場所：舞鶴市赤れんがパーク2号棟ホール  
回答数：60名(参加者100名)

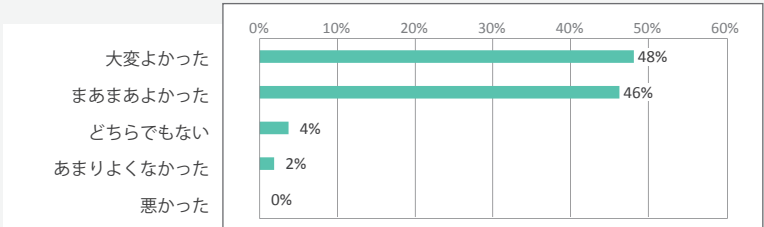
### 1. フォーラムをどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)



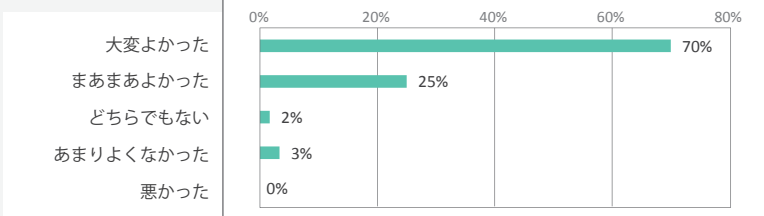
### 2. ご来場の動機をお聞かせください。(複数回答可)



### 3. フォーラム全体の印象はいかがでしたか。



### 4. 基調講演の印象はいかがでしたか。

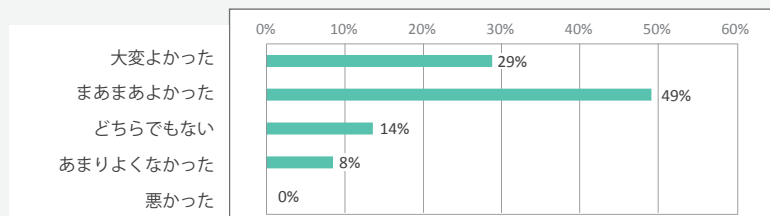


### 特に印象に残ったコメントなど (自由記述)

- 発信、PRIについて学ぶ点が多々ありました。
- データ数字の中身の説明が良かった。
- 知財系の知識がブランド戦略に必須だということが分かりました。
- 地方の現状やこれまでの取り組みなど、新鮮な内容だった。
- 地方の良いイメージの発信と悪いイメージの払拭が必要だと感じました。

- 「困った」が、ものづくりの原点ということで、課題に直面した時の発想、アイデアなどにより新たな産業、取組が生まれ、定着しつつあることを学びました。
- 話し方が大変上手だった。内容的にもとても面白かった。
- お話を聞かしてとてもすっきりしました。何より、予算が無くても取組む事の出来る事例はとても参考になった。
- 地域振興の実践における常識を知らないことに気づき、勉強になりました。
- コンサル的な内容ではなく、実施に関わった村おこし体験が説得力があって大変参考になりました。

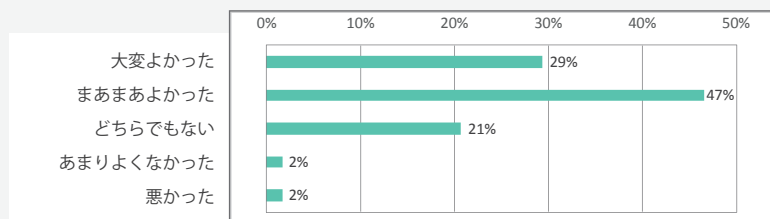
## 5. パネルディスカッションの印象はいかがでしたか。



### 特に印象に残った取り組みや活動など（自由記述）

- ・就職氷河期の非正規雇用者に目を向けるということはとても面白い見方だと思った。
- ・三十人式の試みはなかなか良いのではないか。四十人式も良いかもしれない。
- ・地域に残って働く人を、どう確保するか、行政・教育機関・地元企業が本気で一体になって知恵を出さなければならない時代になったと感じました。
- ・現場の取組を知る機会となった。
- ・現役時代、技術者採用で苦労しました。地元教育機関の新卒者を如何にして地元企業へ振り向かせるか？U/I/Jターンの仕組み(掛)作りが必要だと思います。
- ・コーディネータとして、もう少し深く突っ込んだ質問があれば良かった。
- ・いろいろな動向が理解できた。
- ・学生の参加もあれば良かったかなと思いました。

## 6. ポスター展示の印象はいかがでしたか。



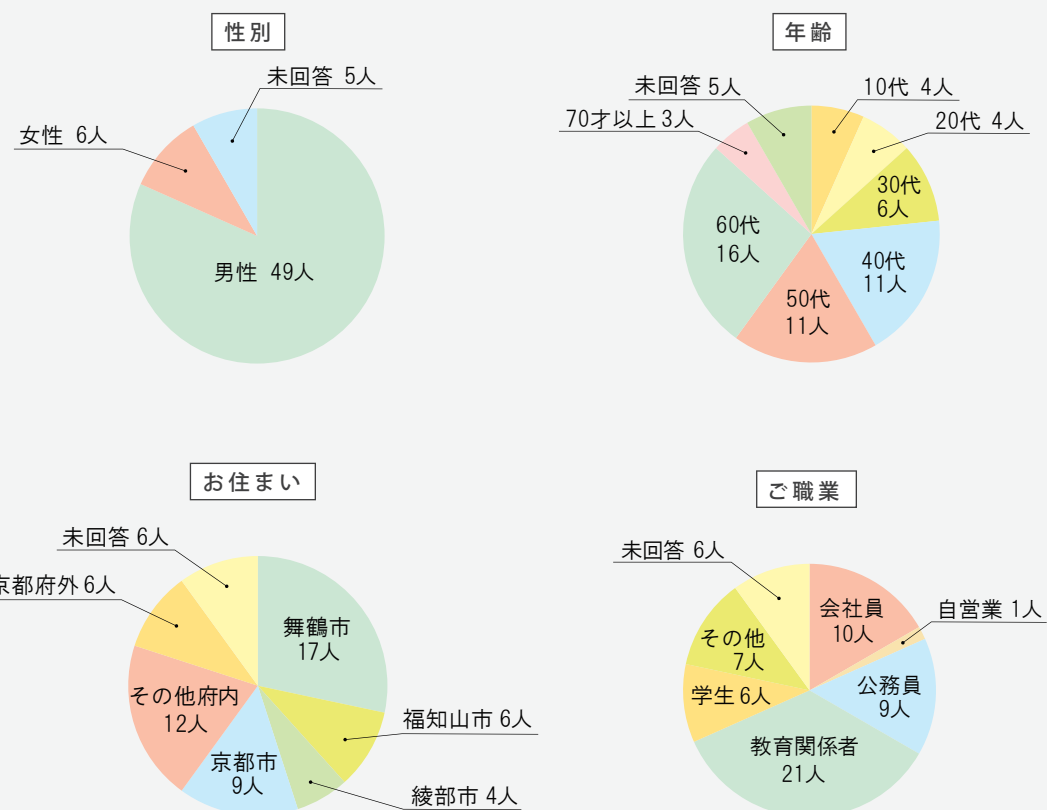
### 特に印象に残った取り組みや活動など（自由記述）

- ・地域についての取り組みについて知ることができました。
- ・書式は統一されていて見やすかった。
- ・説明いただける各校の担当者がいらしゃったのはありがたかったです。
- ・ポスターの説明を聞く時間が短いと感じた。
- ・COCの取組が具体的に理解できた。

## 7. その他、ご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・多くの方々の地域に対する取組を知ることができて良かったです。
- ・どの話も初めて聞くことで新鮮味があり、とても面白かった。
- ・地元就職を推進されているとのことだが、どれくらいの事例があるのか気になりました。この場合は成果発表の場なのかなと思いましたが、就職を増やすのであれば、学生も参加できる内容・日程が良いのではと思いました。
- ・来年度のフォーラムも期待しています。
- ・北部で教育機関がここまで地域の各層に存在感を高めた機会は初めてではないかと思います。COC+には期限がありますが、その期間はもちろん、終了後もこの地域で継続して取り組んでいただきますようお願いします。行政も教育はまちの100年の計ととらえて、しっかり支援いただきますように。
- ・U/I/Jターンの就職希望者の採用仕組を確立して欲しい。地元企業(大手の子会社含め)は人材を渴望しています。
- ・子育て環境のづくりの観点から、来場者のメインターゲットを育児中の人を対象にしたフォーラムを検討してほしい。
- ・パネルディスカッションの際に、後ろのモニターに地域再生に関する課題文を一つ表示してパネラーが議論する形式が良いのではないかと。
- ・大変興味深い内容でした。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・パネルにももう少し時間を多くとることは必要でないかと思いました。

## 参考情報





## 1. 事業紹介冊子 2017 年度版の作成

COC+事業を紹介する事業紹介冊子『これまでの実績と今後の展望』を作成しました。

本学は、2013年度に「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、毎年度実施した事業を取りまとめレポート(平成25年度～平成29年度)を作成してきました。2015年度には、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」にも採択されたことから、2016年度の実施報告書では、大学COC事業とCOC+事業の実施内容を全て網羅しました。

事業協働機関等から、「実施報告書とは別に、事業のエッセンスを抽出したような概要版を作成してほしい」との要望があったことから、中間評価の面接時に用いた説明資料を基にして、COC+大学と参加校の実施概要を取りまとめた冊子を作成しました。

当該事業を説明する様々な機会に用いています。



## 2. COC+Web サイトでの各校取組みの紹介

事業協働機関からの「5校の取組みをライブ的に見られるポータルサイトがあればよい」との提案を反映して、京都工芸繊維大学COC事業ウェブサイト「KYOTO KOSEN COC PROJECT」をリニューアルしました。5校の取組みを随時掲載しています。



## 3. 新聞・雑誌の取材



『蜚雪時代』(2017年6月号)

森迫 清貴 理事・副学長(現・学長)、  
地域創生 Tech Program2回生のインタビュー



あやべ市民新聞(2017年6月5日)

京都工芸繊維大学と、綾部工業団地振興センター、  
キングモンクット工科大学(タイ)のインターン  
シップ協定締結



北近畿経済新聞(2017年8月21日)

「地域課題解決めざす21世紀型の大学を」  
森迫 清貴 理事・副学長(現・学長)のインタビュー







京都工芸繊維大学

COC+



お問い合わせ先

代表校



京都工芸繊維大学 産学・地域連携課  
☎ 075-724-7106  
✉ [chiiki@jim.kit.ac.jp](mailto:chiiki@jim.kit.ac.jp)

連携校



京都府立大学  
京都地域未来創造センター  
☎ 075-703-5156・5147  
✉ [info@kpu-coc.jp](mailto:info@kpu-coc.jp)



舞鶴工業高等専門学校  
COC事務局  
☎ 0773-62-8860  
✉ [coc@maizuru-ct.ac.jp](mailto:coc@maizuru-ct.ac.jp)



京都学園大学  
研究・連携支援センター  
☎ 0771-29-3593  
✉ [liaison@kyotogakuen.ac.jp](mailto:liaison@kyotogakuen.ac.jp)



京都文教大学  
フィールドリサーチオフィス  
☎ 0774-25-2630  
✉ [fro@po.kbu.ac.jp](mailto:fro@po.kbu.ac.jp)